

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師	田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について				
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について				
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師		岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル					
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In					
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		作詞 I		担当講師	吉田 佳代	
講師実務経験		シンガーソングライター・作詞講師・ボイストレーナー				
対象学年	1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間	1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期	修 得 目 標					
1 期		作詞の基礎を修得し、作詞に慣れる。				
2 期		構成を意識して作詞する 詩的表現を取得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日	詞の大切さを理解する。テーマと素材について。				
2	4月20日	1番の構成のバランス				
3	5月11日	2番の構成のバランス				
4	5月18日	1番完成 タイトルの付け方				
5	5月25日	2番完成 推敲（作品を練り直す）				
6	6月1日	1番完成 積み上げ法				
7	6月22日	2番完成 比喩（直喩）				
8	6月29日	1番完成 比喩（暗喩）				
9	7月6日	2番完成 音数律				
10	7月13日	1番完成 体言止め				
11	8月17日	2番完成 倒置法				
12	8月24日	1番完成 心情を情景で表現する				
13	8月31日	2番完成 リフレイン				
14	9月7日	1番完成 擬人法				
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		音楽基礎ⅠA				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		コードを学ぶ上で不可欠な音程を十分理解する							
2期		様々なスケールやコードの仕組みを修得する							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	メロディー、ハーモニーを構成するメジャースケールを理解する							
2	4月21日	様々な音程と音程の回転について理解し、1-8度、2-7度の音程を修得する							
3	5月12日	様々な音程と音程の回転について理解し、3-6度の音程を修得する							
4	5月19日	様々な音程と音程の回転について理解し、4-5度の音程を修得する							
5	5月26日	3つのマイナースケールの理解							
6	6月2日	マジャー、マイナースケールを様々なキーで理解							
7	6月16日	5度圏から応用して得られるいくつかの理論について							
8	6月23日	近親調について							
9	6月30日	基本の三和音の修得							
10	7月7日	基本の三和音を元に作られる四和音の修得							
11	8月18日	その他の三和音、四和音について							
12	8月25日	これまでのコードについて十分理解しているか総復習							
13	9月1日	ダイアトニックスケールとダイアトニックコードの理解							
14	9月8日	ディグリーネームの理解、ダイアトニックコードの役割について							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		音楽基礎 I B				担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		音楽の理論的側面に触れることによって、表現の可能性・多様性を知る							
2期		基礎的な知識を使って、意図的な音楽づくりができるようになる							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	授業ガイダンス							
2	4月21日	スケール1							
3	5月12日	スケール2							
4	5月19日	調号 スケールと調号の関連性／記譜・読譜について							
5	5月26日	音程1							
6	6月2日	音程2							
7	6月16日	5度圏／近親調							
8	6月23日	コード1 基本的コードのしくみ							
9	6月30日	コード2 基本的コードの記譜、読譜、変化							
10	7月7日	コード3 その他のコードのしくみ、基本コードとの関連性について							
11	8月18日	コード4 その他のコードの記譜、読譜、変化							
12	8月25日	コード5 応用コード、特殊コード							
13	9月1日	コード6 スコアの中のコード							
14	9月8日	まとめと復習							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		アンサンブル I		担当講師		川畑統正/中田有紀/松並姿帆	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実技
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		課題曲を通じてアンサンブルとは何かを考える。					
2期		グループに分かれてオリジナル曲を作り上げる。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス/課題曲					
2	4月21日	課題曲①					
3	5月12日	課題曲②					
4	5月19日	課題曲③					
5	5月26日	課題曲④					
6	6月2日	課題曲⑤					
7	6月16日	グループ分け/オリジナル曲を作るにあたって					
8	6月23日	オリジナル曲作成①					
9	6月30日	オリジナル曲作成②					
10	7月7日	オリジナル曲作成③					
11	8月18日	オリジナル曲作成④					
12	8月25日	オリジナル曲作成⑤					
13	9月1日	オリジナル曲演奏					
14	9月8日	前期試験にむけて					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズム I		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室・通信制高等学校勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音符を理解し、いいリズム感のゴールを設定する					
2期		リズムを身体を使って体感する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	音符について①					
3	5月13日	音符について②					
4	5月20日	いいリズム感について					
5	5月27日	リーディングとヒアリング					
6	6月3日	アクセントとモーションについて					
7	6月17日	リズムをパーカッションを使って体感する					
8	6月24日	カウントの重要性について					
9	7月1日	リズムの裏について					
10	7月8日	3連符について					
11	8月19日	シンコペーションについて					
12	8月26日	BeatとFeelについて					
13	9月2日	筆記テスト対策授業					
14	9月9日	実技テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTM I			担当講師		谷津 祐子			
講師実務経験		大学非常勤講師								
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習		
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標								
1 期		MIDI機器の扱いを習得し、基本的な入力方法ができるようになる								
2 期		楽器や音色の特色を活かした音づくりを習得し、簡単なアレンジができるようになる								
回数	日程	【授 業 計 画】								
1	4月15日	授業ガイダンス								
2	4月22日	ステップレコード 1								
3	5月13日	ステップレコード 2								
4	5月20日	リアルタイム入力とクオンタイズ 1								
5	5月27日	リアルタイム入力とクオンタイズ 2								
6	6月3日	ショートカット								
7	6月17日	ペロシティ編集								
8	6月24日	デュレーション編集								
9	7月1日	ドラム入力								
10	7月8日	ボリュームとエクスペッション編集								
11	8月19日	テンポ／拍子／キーの編集								
12	8月26日	前期課題制作 1								
13	9月2日	前期課題制作 2								
14	9月9日	前期課題制作 3								
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）								
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)								
テキスト										
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）								

科目名		ヴォーカル実習Ⅰ		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		人前で声を出すことになれる、自分の声を知る					
2期		ヴォーカルテクニックの強化(2度～3度までのオルタードを含んだメロディー)					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	腹式・胸式呼吸、ブレスコントロール、ハミング					
2	4月23日	曲をそれぞれ持合い、アドバイス。今後の課題を見つける。					
3	5月14日	喉の開け方、ロングトーン、スタッカート、母音の発音					
4	5月21日	2度ソルフェージュ、メジャースケール					
5	5月28日	2度ソルフェージュ、メジャースケール1人ずつの歌唱					
6	6月4日	地声、ミドルボイスの違いを知り体感する					
7	6月18日	ミドルボイス、ファルセットの違い、つながりを知り体感する					
8	6月25日	日本語と英語の発音や、アクセントの違い					
9	7月2日	課題曲を用いて、リエゾンやアクセントを覚える					
10	7月6日	録音などもしながら、声を客観的に聴く					
11	7月9日	課題曲を用いて、2声のハーモニーをつける					
12	7月13日	2度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
13	8月17日	2度ソルフェージュ(マイナースケール)・3度ソルフェージュ					
14	8月20日	3度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
15	8月24日	開く母音、閉じる母音、無声子音					
16	8月27日	録音などもしながら、評価しあう					
17	8月31日	uh～ah～コーラス、字ハモなど					
18	9月3日	3度ソルフェージュ(マイナースケール)					
19	9月7日	ハンドクラップ、足でステップを踏む					
20	9月10日	鏡を見て歌いながらハンドクラップ、マイクの使い方の確認					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習 I		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ギター演奏上での基本技術・知識の修得					
2期		基礎を踏まえ、演奏への応用					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	実習内容について説明、楽器のセットアップ、基本エクササイズ					
2	4月23日	フォームチェック、ピッキングやフィンガリング、リズムについて					
3	5月14日	カッティングエクササイズ、ミュートやストロークについて					
4	5月21日	メジャースケールエクササイズ、インポジションについて					
5	5月28日	コードについて、オープンコード、バレーコードの基礎について					
6	6月4日	リズムコードについて①					
7	6月18日	リズムコードについて②					
8	6月25日	ブルースエクササイズを用いて、コード、リズムの応用					
9	7月2日	ブルースエクササイズを用いて、テーマの導入					
10	7月6日	メジャースケールエクササイズ、ブローケンポジションについて					
11	7月9日	マイナースケールについて①					
12	7月13日	マイナースケールについて②					
13	8月17日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行①					
14	8月20日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行②					
15	8月24日	Funkリズムの導入、エクササイズ①					
16	8月27日	Funkリズムの導入、エクササイズ②					
17	8月31日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について①					
18	9月3日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について②					
19	9月7日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など①					
20	9月10日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など②					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実技実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		・ベースという楽器の基礎知識と基本的な演奏フォーム(左手、右手)を固める。 ・譜割り/ベーシックグループ ・記譜上の譜割りを演奏し、様々なリズムで演奏できるようになる。					
2期		・12キーのメジャースケールと、そこから派生するコードを理解し、演奏できるようになる。 ・ピック弾き、フィンガーピッキング、スラップの基礎を身につける。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業目標と内容の説明					
2	4月23日	チューニングと記譜音(実音)					
3	5月14日	クロマチック エクササイズ(ストレッチ)					
4	5月21日	右手の奏法～音質(ハンマリング、プリング)					
5	5月28日	譜割/ベーシックグループ					
6	6月4日	譜割/ベーシックグループ					
7	6月18日	メジャースケール					
8	6月25日	メジャースケール					
9	7月2日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
10	7月6日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
11	7月9日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
12	7月13日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
13	8月17日	セブンスコードと表記					
14	8月20日	ブルースベースライン					
15	8月24日	ペントニック～ブルーススケール					
16	8月27日	ペントニック～ブルーススケール②					
17	8月31日	ナチュラルマイナースケール/ハーモニー					
18	9月3日	ハーモニクマイナー/ハーモニー					
19	9月7日	メロディックマイナー/ハーモニー					
20	9月10日	実技修得度の確認					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習		担当講師		岸林 大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		演奏基礎(読譜)技術の修得、向上					
2期		Dr.Setへの積極的な応用、発展、読譜力の向上					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	ガイダンス、ストローク、Basic Workoutの導入					
2	4月23日	ストローク#2、Basic Workout					
3	5月14日	ストローク#3、Basic Woukout					
4	5月21日	Groove#1、Basic Woukout					
5	5月28日	Groove#2、Basic Woukout					
6	6月4日	Groove#3、Basic Woukout					
7	6月18日	Groove#4、Basic Woukout					
8	6月25日	Groove#5、Basic Woukout					
9	7月2日	Groove#6、Basic Woukout					
10	7月6日	Groove#7、ルーディメンツの導入#1、Basic Woukout					
11	7月9日	Groove#8、ルーディメンツの導入#2、Basic Woukout					
12	7月13日	Groove#9、ルーディメンツの導入#3、Basic Woukout					
13	8月17日	Groove#10、ルーディメンツの導入#4、Basic Woukout					
14	8月20日	Groove#11、ルーディメンツの導入#5、Basic Woukout					
15	8月24日	Groove#12、ルーディメンツの導入#6、Basic Woukout					
16	8月27日	Groove#13、ルーディメンツの導入#7、Basic Woukout、試験対策					
17	8月31日	Groove#14、Fill Concept#1、Basic Woukout、試験対策					
18	9月3日	Groove#15、Fill Concept#2、Basic Woukout、試験対策					
19	9月7日	Groove#16、Fill Concept#3、Basic Woukout、試験対策					
20	9月10日	実技習得度の確認、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		K e y 実 習				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習	
期 間		1期・2期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標							
1期		コードやリズムを理解する							
2期		作曲や編曲をする際のキーボード活用や演奏							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月16日	トレーニング方法とスケール運指の原則を理解する							
2	4月23日	#b 1つのメジャースケールとトライアドの構成音を修得							
3	5月14日	#b 2つのメジャースケールとトライアド+6th,7th,M7th							
4	5月21日	# 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
5	5月28日	b 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
6	6月4日	# 4つのメジャースケールとコード転回、ピアノ曲イントロ							
7	6月18日	b 4つのメジャースケールとコード転回							
8	6月25日	augやb 5の修得、ピアノ曲Aメロ～							
9	7月2日	diminishの修得							
10	7月9日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習①ソロピアノ曲練習							
11	8月20日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習②ソロピアノ曲練習							
12	8月27日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習③ソロピアノ曲練習							
13	9月3日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習④ソロピアノ曲練習							
14	9月10日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習⑤ソロピアノ曲練習							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		スコアⅠ				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		楽譜における記号や決まり事を理解する。							
2 期		「読むことが出来る」「書くことが出来る」を目指す。							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月17日	五線の仕組みを知り、低い音、高い音の表し方を理解する。							
2	4月24日	音符と休符の長さを表す仕組みを理解する。							
3	5月8日	符点の仕組みを知り、音符と休符全般について理解する。							
4	5月15日	連符の仕組みを理解する							
5	5月22日	拍子の種類と表し方の決まり事を理解する							
6	5月29日	正しい連行で理解しやすい楽譜になる事の理解							
7	6月5日	タイなどを用いながら正しい連桁ができる							
8	6月19日	拍子による連行の違いやルールを理解する							
9	6月26日	色々な場面での強拍の移動を理解する							
10	7月3日	それぞれの記号のルールを理解し演奏順序を理解する							
11	7月10日	「見やすい」楽譜の作成							
12	8月21日	ポピュラー音楽に必要なものを修得する							
13	8月28日	楽譜からコードを導いている音を理解する							
14	9月4日	「見やすい」楽譜の作成を移調して作成する							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		作詞 I		担当講師	吉田 佳代	
講師実務経験		シンガーソングライター・作詞講師・ボイストレーナー				
対象学年	1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間	1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1 期		作詞の基礎を修得し、作詞に慣れる。				
2 期		構成を意識して作詞する 詩的表現を取得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日	詞の大切さを理解する。テーマと素材について。				
2	4月20日	1番の構成のバランス				
3	5月11日	2番の構成のバランス				
4	5月18日	1番完成 タイトルの付け方				
5	5月25日	2番完成 推敲（作品を練り直す）				
6	6月1日	1番完成 積み上げ法				
7	6月22日	2番完成 比喩（直喩）				
8	6月29日	1番完成 比喩（暗喩）				
9	7月6日	2番完成 音数律				
10	7月13日	1番完成 体言止め				
11	8月17日	2番完成 倒置法				
12	8月24日	1番完成 心情を情景で表現する				
13	8月31日	2番完成 リフレイン				
14	9月7日	1番完成 擬人法				
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		音楽基礎ⅠA				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		コードを学ぶ上で不可欠な音程を十分理解する							
2期		様々なスケールやコードの仕組みを修得する							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	メロディー、ハーモニーを構成するメジャースケールを理解する							
2	4月21日	様々な音程と音程の回転について理解し、1-8度、2-7度の音程を修得する							
3	5月12日	様々な音程と音程の回転について理解し、3-6度の音程を修得する							
4	5月19日	様々な音程と音程の回転について理解し、4-5度の音程を修得する							
5	5月26日	3つのマイナースケールの理解							
6	6月2日	マジャー、マイナースケールを様々なキーで理解							
7	6月16日	5度圏から応用して得られるいくつかの理論について							
8	6月23日	近親調について							
9	6月30日	基本の三和音の修得							
10	7月7日	基本の三和音を元に作られる四和音の修得							
11	8月18日	その他の三和音、四和音について							
12	8月25日	これまでのコードについて十分理解しているか総復習							
13	9月1日	ダイアトニックスケールとダイアトニックコードの理解							
14	9月8日	ディグリーネームの理解、ダイアトニックコードの役割について							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		音楽基礎ⅠB				担当講師		谷津 祐子				
講師実務経験		大学非常勤講師										
対象学年		1	学年	対象専攻		ミュージシャンコース		授業形態		講義		
期 間		1期・2期		総授業回数		14	回	1回あたりの授業時間			135	分
期		修 得 目 標										
1期		音楽の理論的側面に触れることによって、表現の可能性・多様性を知る										
2期		基礎的な知識を使って、意図的な音楽づくりができるようになる										
回数	日程		【授 業 計 画】									
1	4月14日	授業ガイダンス										
2	4月21日	スケール1										
3	5月12日	スケール2										
4	5月19日	調号 スケールと調号の関連性／記譜・読譜について										
5	5月26日	音程1										
6	6月2日	音程2										
7	6月16日	5度圏／近親調										
8	6月23日	コード1 基本的コードのしくみ										
9	6月30日	コード2 基本的コードの記譜、読譜、変化										
10	7月7日	コード3 その他のコードのしくみ、基本コードとの関連性について										
11	8月18日	コード4 その他のコードの記譜、読譜、変化										
12	8月25日	コード5 応用コード、特殊コード										
13	9月1日	コード6 スコアの中のコード										
14	9月8日	まとめと復習										
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)										
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)										
テキスト												
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)										

科目名		アンサンブル I		担当講師		川畑統正/中田有紀/松並姿帆	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実技
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		課題曲を通じてアンサンブルとは何かを考える。					
2期		グループに分かれてオリジナル曲を作り上げる。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス/課題曲					
2	4月21日	課題曲①					
3	5月12日	課題曲②					
4	5月19日	課題曲③					
5	5月26日	課題曲④					
6	6月2日	課題曲⑤					
7	6月16日	グループ分け/オリジナル曲を作るにあたって					
8	6月23日	オリジナル曲作成①					
9	6月30日	オリジナル曲作成②					
10	7月7日	オリジナル曲作成③					
11	8月18日	オリジナル曲作成④					
12	8月25日	オリジナル曲作成⑤					
13	9月1日	オリジナル曲演奏					
14	9月8日	前期試験にむけて					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズム I		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室・通信制高等学校勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音符を理解し、いいリズム感のゴールを設定する					
2期		リズムを身体を使って体感する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	音符について①					
3	5月13日	音符について②					
4	5月20日	いいリズム感について					
5	5月27日	リーディングとヒアリング					
6	6月3日	アクセントとモーションについて					
7	6月17日	リズムをパーカッションを使って体感する					
8	6月24日	カウントの重要性について					
9	7月1日	リズムの裏について					
10	7月8日	3連符について					
11	8月19日	シンコペーションについて					
12	8月26日	BeatとFeelについて					
13	9月2日	筆記テスト対策授業					
14	9月9日	実技テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTM I				担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	実習
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		MIDI機器の扱いを習得し、基本的な入力方法ができるようになる							
2 期		楽器や音色の特色を活かした音づくりを習得し、簡単なアレンジができるようになる							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月15日	授業ガイダンス							
2	4月22日	ステップレコード 1							
3	5月13日	ステップレコード 2							
4	5月20日	リアルタイム入力とクオンタイズ 1							
5	5月27日	リアルタイム入力とクオンタイズ 2							
6	6月3日	ショートカット							
7	6月17日	ペロシティ編集							
8	6月24日	デュレーション編集							
9	7月1日	ドラム入力							
10	7月8日	ボリュームとエクスプレッション編集							
11	8月19日	テンポ／拍子／キーの編集							
12	8月26日	前期課題制作 1							
13	9月2日	前期課題制作 2							
14	9月9日	前期課題制作 3							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		ヴォーカル実習Ⅰ		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		人前で声を出すことになれる、自分の声を知る					
2期		ヴォーカルテクニックの強化(2度～3度までのオルタードを含んだメロディー)					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	腹式・胸式呼吸、ブレスコントロール、ハミング					
2	4月23日	曲をそれぞれ持合い、アドバイス。今後の課題を見つける。					
3	5月14日	喉の開け方、ロングトーン、スタッカート、母音の発音					
4	5月21日	2度ソルフェージュ、メジャースケール					
5	5月28日	2度ソルフェージュ、メジャースケール1人ずつの歌唱					
6	6月4日	地声、ミドルボイスの違いを知り体感する					
7	6月18日	ミドルボイス、ファルセットの違い、つながりを知り体感する					
8	6月25日	日本語と英語の発音や、アクセントの違い					
9	7月2日	課題曲を用いて、リエゾンやアクセントを覚える					
10	7月6日	録音などもしながら、声を客観的に聴く					
11	7月9日	課題曲を用いて、2声のハーモニーをつける					
12	7月13日	2度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
13	8月17日	2度ソルフェージュ(マイナースケール)・3度ソルフェージュ					
14	8月20日	3度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
15	8月24日	開く母音、閉じる母音、無声子音					
16	8月27日	録音などもしながら、評価しあう					
17	8月31日	uh～ah～コーラス、字ハモなど					
18	9月3日	3度ソルフェージュ(マイナースケール)					
19	9月7日	ハンドクラップ、足でステップを踏む					
20	9月10日	鏡を見て歌いながらハンドクラップ、マイクの使い方の確認					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習 I		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ギター演奏上での基本技術・知識の修得					
2期		基礎を踏まえ、演奏への応用					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	実習内容について説明、楽器のセットアップ、基本エクササイズ					
2	4月23日	フォームチェック、ピッキングやフィンガリング、リズムについて					
3	5月14日	カッティングエクササイズ、ミュートやストロークについて					
4	5月21日	メジャースケールエクササイズ、インポジションについて					
5	5月28日	コードについて、オープンコード、バレーコードの基礎について					
6	6月4日	リズムコードについて①					
7	6月18日	リズムコードについて②					
8	6月25日	ブルースエクササイズを用いて、コード、リズムの応用					
9	7月2日	ブルースエクササイズを用いて、テーマの導入					
10	7月6日	メジャースケールエクササイズ、ブローケンポジションについて					
11	7月9日	マイナースケールについて①					
12	7月13日	マイナースケールについて②					
13	8月17日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行①					
14	8月20日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行②					
15	8月24日	Funkリズムの導入、エクササイズ①					
16	8月27日	Funkリズムの導入、エクササイズ②					
17	8月31日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について①					
18	9月3日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について②					
19	9月7日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など①					
20	9月10日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など②					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実技実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		・ベースという楽器の基礎知識と基本的な演奏フォーム(左手、右手)を固める。 ・譜割り/ベーシックグループ ・記譜上の譜割りを演奏し、様々なリズムで演奏できるようになる。					
2期		・12キーのメジャースケールと、そこから派生するコードを理解し、演奏できるようになる。 ・ピック弾き、フィンガーピッキング、スラップの基礎を身につける。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業目標と内容の説明					
2	4月23日	チューニングと記譜音(実音)					
3	5月14日	クロマチック エクササイズ(ストレッチ)					
4	5月21日	右手の奏法～音質(ハンマリング、プリング)					
5	5月28日	譜割/ベーシックグループ					
6	6月4日	譜割/ベーシックグループ					
7	6月18日	メジャースケール					
8	6月25日	メジャースケール					
9	7月2日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
10	7月6日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
11	7月9日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
12	7月13日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
13	8月17日	セブンスコードと表記					
14	8月20日	ブルースベースライン					
15	8月24日	ペントニック～ブルーススケール					
16	8月27日	ペントニック～ブルーススケール②					
17	8月31日	ナチュラルマイナースケール/ハーモニー					
18	9月3日	ハーモニクマイナー/ハーモニー					
19	9月7日	メロディックマイナー/ハーモニー					
20	9月10日	実技修得度の確認					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習		担当講師		岸林 大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		演奏基礎(読譜)技術の修得、向上					
2期		Dr.Setへの積極的な応用、発展、読譜力の向上					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	ガイダンス、ストローク、Basic Workoutの導入					
2	4月23日	ストローク#2、Basic Workout					
3	5月14日	ストローク#3、Basic Woukout					
4	5月21日	Groove#1、Basic Woukout					
5	5月28日	Groove#2、Basic Woukout					
6	6月4日	Groove#3、Basic Woukout					
7	6月18日	Groove#4、Basic Woukout					
8	6月25日	Groove#5、Basic Woukout					
9	7月2日	Groove#6、Basic Woukout					
10	7月6日	Groove#7、ルーディメンツの導入#1、Basic Woukout					
11	7月9日	Groove#8、ルーディメンツの導入#2、Basic Woukout					
12	7月13日	Groove#9、ルーディメンツの導入#3、Basic Woukout					
13	8月17日	Groove#10、ルーディメンツの導入#4、Basic Woukout					
14	8月20日	Groove#11、ルーディメンツの導入#5、Basic Woukout					
15	8月24日	Groove#12、ルーディメンツの導入#6、Basic Woukout					
16	8月27日	Groove#13、ルーディメンツの導入#7、Basic Woukout、試験対策					
17	8月31日	Groove#14、Fill Concept#1、Basic Woukout、試験対策					
18	9月3日	Groove#15、Fill Concept#2、Basic Woukout、試験対策					
19	9月7日	Groove#16、Fill Concept#3、Basic Woukout、試験対策					
20	9月10日	実技習得度の確認、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		K e y 実 習				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習	
期 間		1期・2期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標							
1期		コードやリズムを理解する							
2期		作曲や編曲をする際のキーボード活用や演奏							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月16日	トレーニング方法とスケール運指の原則を理解する							
2	4月23日	#b 1つのメジャースケールとトライアドの構成音を修得							
3	5月14日	#b 2つのメジャースケールとトライアド+6th,7th,M7th							
4	5月21日	# 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
5	5月28日	b 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
6	6月4日	# 4つのメジャースケールとコード転回、ピアノ曲イントロ							
7	6月18日	b 4つのメジャースケールとコード転回							
8	6月25日	augやb 5の修得、ピアノ曲Aメロ～							
9	7月2日	diminishの修得							
10	7月9日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習①ソロピアノ曲練習							
11	8月20日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習②ソロピアノ曲練習							
12	8月27日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習③ソロピアノ曲練習							
13	9月3日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習④ソロピアノ曲練習							
14	9月10日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習⑤ソロピアノ曲練習							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		スコアⅠ				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		楽譜における記号や決まり事を理解する。							
2 期		「読むことが出来る」「書くことが出来る」を目指す。							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月17日	五線の仕組みを知り、低い音、高い音の表し方を理解する。							
2	4月24日	音符と休符の長さを表す仕組みを理解する。							
3	5月8日	符点の仕組みを知り、音符と休符全般について理解する。							
4	5月15日	連符の仕組みを理解する							
5	5月22日	拍子の種類と表し方の決まり事を理解する							
6	5月29日	正しい連行で理解しやすい楽譜になる事の理解							
7	6月5日	タイなどを用いながら正しい連桁ができる							
8	6月19日	拍子による連行の違いやルールを理解する							
9	6月26日	色々な場面での強拍の移動を理解する							
10	7月3日	それぞれの記号のルールを理解し演奏順序を理解する							
11	7月10日	「見やすい」楽譜の作成							
12	8月21日	ポピュラー音楽に必要なものを修得する							
13	8月28日	楽譜からコードを導いている音を理解する							
14	9月4日	「見やすい」楽譜の作成を移調して作成する							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		作詞 I		担当講師	吉田 佳代	
講師実務経験		シンガーソングライター・作詞講師・ボイストレーナー				
対象学年	1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間	1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期	修 得 目 標					
1 期		作詞の基礎を修得し、作詞に慣れる。				
2 期		構成を意識して作詞する 詩的表現を取得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日	詞の大切さを理解する。テーマと素材について。				
2	4月20日	1番の構成のバランス				
3	5月11日	2番の構成のバランス				
4	5月18日	1番完成 タイトルの付け方				
5	5月25日	2番完成 推敲（作品を練り直す）				
6	6月1日	1番完成 積み上げ法				
7	6月22日	2番完成 比喩（直喩）				
8	6月29日	1番完成 比喩（暗喩）				
9	7月6日	2番完成 音数律				
10	7月13日	1番完成 体言止め				
11	8月17日	2番完成 倒置法				
12	8月24日	1番完成 心情を情景で表現する				
13	8月31日	2番完成 リフレイン				
14	9月7日	1番完成 擬人法				
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		音楽基礎ⅠA				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		コードを学ぶ上で不可欠な音程を十分理解する							
2期		様々なスケールやコードの仕組みを修得する							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	メロディー、ハーモニーを構成するメジャースケールを理解する							
2	4月21日	様々な音程と音程の回転について理解し、1-8度、2-7度の音程を修得する							
3	5月12日	様々な音程と音程の回転について理解し、3-6度の音程を修得する							
4	5月19日	様々な音程と音程の回転について理解し、4-5度の音程を修得する							
5	5月26日	3つのマイナースケールの理解							
6	6月2日	マジャー、マイナースケールを様々なキーで理解							
7	6月16日	5度圏から応用して得られるいくつかの理論について							
8	6月23日	近親調について							
9	6月30日	基本の三和音の修得							
10	7月7日	基本の三和音を元に作られる四和音の修得							
11	8月18日	その他の三和音、四和音について							
12	8月25日	これまでのコードについて十分理解しているか総復習							
13	9月1日	ダイアトニックスケールとダイアトニックコードの理解							
14	9月8日	ディグリーネームの理解、ダイアトニックコードの役割について							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		音楽基礎 I B				担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		音楽の理論的側面に触れることによって、表現の可能性・多様性を知る							
2期		基礎的な知識を使って、意図的な音楽づくりができるようになる							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	授業ガイダンス							
2	4月21日	スケール1							
3	5月12日	スケール2							
4	5月19日	調号 スケールと調号の関連性／記譜・読譜について							
5	5月26日	音程1							
6	6月2日	音程2							
7	6月16日	5度圏／近親調							
8	6月23日	コード1 基本的コードのしくみ							
9	6月30日	コード2 基本的コードの記譜、読譜、変化							
10	7月7日	コード3 その他のコードのしくみ、基本コードとの関連性について							
11	8月18日	コード4 その他のコードの記譜、読譜、変化							
12	8月25日	コード5 応用コード、特殊コード							
13	9月1日	コード6 スコアの中のコード							
14	9月8日	まとめと復習							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		アンサンブル I		担当講師		川畑統正/中田有紀/松並姿帆	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実技
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		課題曲を通じてアンサンブルとは何かを考える。					
2期		グループに分かれてオリジナル曲を作り上げる。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス/課題曲					
2	4月21日	課題曲①					
3	5月12日	課題曲②					
4	5月19日	課題曲③					
5	5月26日	課題曲④					
6	6月2日	課題曲⑤					
7	6月16日	グループ分け/オリジナル曲を作るにあたって					
8	6月23日	オリジナル曲作成①					
9	6月30日	オリジナル曲作成②					
10	7月7日	オリジナル曲作成③					
11	8月18日	オリジナル曲作成④					
12	8月25日	オリジナル曲作成⑤					
13	9月1日	オリジナル曲演奏					
14	9月8日	前期試験にむけて					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズム I		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室・通信制高等学校勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音符を理解し、いいリズム感のゴールを設定する					
2期		リズムを身体を使って体感する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	音符について①					
3	5月13日	音符について②					
4	5月20日	いいリズム感について					
5	5月27日	リーディングとヒアリング					
6	6月3日	アクセントとモーションについて					
7	6月17日	リズムをパーカッションを使って体感する					
8	6月24日	カウントの重要性について					
9	7月1日	リズムの裏について					
10	7月8日	3連符について					
11	8月19日	シンコペーションについて					
12	8月26日	BeatとFeelについて					
13	9月2日	筆記テスト対策授業					
14	9月9日	実技テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTM I			担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師						
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	
期		135分						
		修 得 目 標						
1期		MIDI機器の扱いを習得し、基本的な入力方法ができるようになる						
2期		楽器や音色の特色を活かした音づくりを習得し、簡単なアレンジができるようになる						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	授業ガイダンス						
2	4月22日	ステップレコード1						
3	5月13日	ステップレコード2						
4	5月20日	リアルタイム入力とクオンタイズ1						
5	5月27日	リアルタイム入力とクオンタイズ2						
6	6月3日	ショートカット						
7	6月17日	ペロシティ編集						
8	6月24日	デュレーション編集						
9	7月1日	ドラム入力						
10	7月8日	ボリュームとエクスペッション編集						
11	8月19日	テンポ／拍子／キーの編集						
12	8月26日	前期課題制作1						
13	9月2日	前期課題制作2						
14	9月9日	前期課題制作3						
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）						

科目名		ヴォーカル実習Ⅰ		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		人前で声を出すことになれる、自分の声を知る					
2期		ヴォーカルテクニックの強化(2度～3度までのオルタードを含んだメロディー)					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	腹式・胸式呼吸、ブレスコントロール、ハミング					
2	4月23日	曲をそれぞれ持合い、アドバイス。今後の課題を見つける。					
3	5月14日	喉の開け方、ロングトーン、スタッカート、母音の発音					
4	5月21日	2度ソルフェージュ、メジャースケール					
5	5月28日	2度ソルフェージュ、メジャースケール1人ずつの歌唱					
6	6月4日	地声、ミドルボイスの違いを知り体感する					
7	6月18日	ミドルボイス、ファルセットの違い、つながりを知り体感する					
8	6月25日	日本語と英語の発音や、アクセントの違い					
9	7月2日	課題曲を用いて、リエゾンやアクセントを覚える					
10	7月6日	録音などもしながら、声を客観的に聴く					
11	7月9日	課題曲を用いて、2声のハーモニーをつける					
12	7月13日	2度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
13	8月17日	2度ソルフェージュ(マイナースケール)・3度ソルフェージュ					
14	8月20日	3度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
15	8月24日	開く母音、閉じる母音、無声子音					
16	8月27日	録音などもしながら、評価しあう					
17	8月31日	uh～ah～コーラス、字ハモなど					
18	9月3日	3度ソルフェージュ(マイナースケール)					
19	9月7日	ハンドクラップ、足でステップを踏む					
20	9月10日	鏡を見て歌いながらハンドクラップ、マイクの使い方の確認					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習 I		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ギター演奏上での基本技術・知識の修得					
2期		基礎を踏まえ、演奏への応用					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	実習内容について説明、楽器のセットアップ、基本エクササイズ					
2	4月23日	フォームチェック、ピッキングやフィンガリング、リズムについて					
3	5月14日	カッティングエクササイズ、ミュートやストロークについて					
4	5月21日	メジャースケールエクササイズ、インポジションについて					
5	5月28日	コードについて、オープンコード、バレーコードの基礎について					
6	6月4日	リズムコードについて①					
7	6月18日	リズムコードについて②					
8	6月25日	ブルースエクササイズを用いて、コード、リズムの応用					
9	7月2日	ブルースエクササイズを用いて、テーマの導入					
10	7月6日	メジャースケールエクササイズ、ブローケンポジションについて					
11	7月9日	マイナースケールについて①					
12	7月13日	マイナースケールについて②					
13	8月17日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行①					
14	8月20日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行②					
15	8月24日	Funkリズムの導入、エクササイズ①					
16	8月27日	Funkリズムの導入、エクササイズ②					
17	8月31日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について①					
18	9月3日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について②					
19	9月7日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など①					
20	9月10日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など②					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実技実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		・ベースという楽器の基礎知識と基本的な演奏フォーム(左手、右手)を固める。 ・譜割り/ベーシックグループ ・記譜上の譜割りを演奏し、様々なリズムで演奏できるようになる。					
2期		・12キーのメジャースケールと、そこから派生するコードを理解し、演奏できるようになる。 ・ピック弾き、フィンガーピッキング、スラップの基礎を身につける。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業目標と内容の説明					
2	4月23日	チューニングと記譜音(実音)					
3	5月14日	クロマチック エクササイズ(ストレッチ)					
4	5月21日	右手の奏法～音質(ハンマリング、プリング)					
5	5月28日	譜割/ベーシックグループ					
6	6月4日	譜割/ベーシックグループ					
7	6月18日	メジャースケール					
8	6月25日	メジャースケール					
9	7月2日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
10	7月6日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
11	7月9日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
12	7月13日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
13	8月17日	セブンスコードと表記					
14	8月20日	ブルースベースライン					
15	8月24日	ペントニック～ブルーススケール					
16	8月27日	ペントニック～ブルーススケール②					
17	8月31日	ナチュラルマイナースケール/ハーモニー					
18	9月3日	ハーモニクマイナー/ハーモニー					
19	9月7日	メロディックマイナー/ハーモニー					
20	9月10日	実技修得度の確認					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習		担当講師		岸林 大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		演奏基礎(読譜)技術の修得、向上					
2期		Dr.Setへの積極的な応用、発展、読譜力の向上					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	ガイダンス、ストローク、Basic Workoutの導入					
2	4月23日	ストローク#2、Basic Workout					
3	5月14日	ストローク#3、Basic Woukout					
4	5月21日	Groove#1、Basic Woukout					
5	5月28日	Groove#2、Basic Woukout					
6	6月4日	Groove#3、Basic Woukout					
7	6月18日	Groove#4、Basic Woukout					
8	6月25日	Groove#5、Basic Woukout					
9	7月2日	Groove#6、Basic Woukout					
10	7月6日	Groove#7、ルーディメンツの導入#1、Basic Woukout					
11	7月9日	Groove#8、ルーディメンツの導入#2、Basic Woukout					
12	7月13日	Groove#9、ルーディメンツの導入#3、Basic Woukout					
13	8月17日	Groove#10、ルーディメンツの導入#4、Basic Woukout					
14	8月20日	Groove#11、ルーディメンツの導入#5、Basic Woukout					
15	8月24日	Groove#12、ルーディメンツの導入#6、Basic Woukout					
16	8月27日	Groove#13、ルーディメンツの導入#7、Basic Woukout、試験対策					
17	8月31日	Groove#14、Fill Concept#1、Basic Woukout、試験対策					
18	9月3日	Groove#15、Fill Concept#2、Basic Woukout、試験対策					
19	9月7日	Groove#16、Fill Concept#3、Basic Woukout、試験対策					
20	9月10日	実技習得度の確認、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		K e y 実 習				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習	
期 間		1期・2期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標							
1期		コードやリズムを理解する							
2期		作曲や編曲をする際のキーボード活用や演奏							
回数	日程	【授業計画】							
1	4月16日	トレーニング方法とスケール運指の原則を理解する							
2	4月23日	#b 1つのメジャースケールとトライアドの構成音を修得							
3	5月14日	#b 2つのメジャースケールとトライアド+6th,7th,M7th							
4	5月21日	#3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
5	5月28日	b 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
6	6月4日	# 4つのメジャースケールとコード転回、ピアノ曲イントロ							
7	6月18日	b 4つのメジャースケールとコード転回							
8	6月25日	augやb 5の修得、ピアノ曲Aメロ～							
9	7月2日	diminishの修得							
10	7月9日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習①ソロピアノ曲練習							
11	8月20日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習②ソロピアノ曲練習							
12	8月27日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習③ソロピアノ曲練習							
13	9月3日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習④ソロピアノ曲練習							
14	9月10日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習⑤ソロピアノ曲練習							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		スコアⅠ				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		楽譜における記号や決まり事を理解する。							
2 期		「読むことが出来る」「書くことが出来る」を目指す。							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月17日	五線の仕組みを知り、低い音、高い音の表し方を理解する。							
2	4月24日	音符と休符の長さを表す仕組みを理解する。							
3	5月8日	符点の仕組みを知り、音符と休符全般について理解する。							
4	5月15日	連符の仕組みを理解する							
5	5月22日	拍子の種類と表し方の決まり事を理解する							
6	5月29日	正しい連行で理解しやすい楽譜になる事の理解							
7	6月5日	タイなどを用いながら正しい連桁ができる							
8	6月19日	拍子による連行の違いやルールを理解する							
9	6月26日	色々な場面での強拍の移動を理解する							
10	7月3日	それぞれの記号のルールを理解し演奏順序を理解する							
11	7月10日	「見やすい」楽譜の作成							
12	8月21日	ポピュラー音楽に必要なものを修得する							
13	8月28日	楽譜からコードを導いている音を理解する							
14	9月4日	「見やすい」楽譜の作成を移調して作成する							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師		岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル					
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In					
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		作詞 I		担当講師	吉田 佳代	
講師実務経験		シンガーソングライター・作詞講師・ボイストレーナー				
対象学年	1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間	1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1 期		作詞の基礎を修得し、作詞に慣れる。				
2 期		構成を意識して作詞する 詩的表現を取得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日	詞の大切さを理解する。テーマと素材について。				
2	4月20日	1番の構成のバランス				
3	5月11日	2番の構成のバランス				
4	5月18日	1番完成 タイトルの付け方				
5	5月25日	2番完成 推敲（作品を練り直す）				
6	6月1日	1番完成 積み上げ法				
7	6月22日	2番完成 比喩（直喩）				
8	6月29日	1番完成 比喩（暗喩）				
9	7月6日	2番完成 音数律				
10	7月13日	1番完成 体言止め				
11	8月17日	2番完成 倒置法				
12	8月24日	1番完成 心情を情景で表現する				
13	8月31日	2番完成 リフレイン				
14	9月7日	1番完成 擬人法				
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		音楽基礎ⅠA				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		コードを学ぶ上で不可欠な音程を十分理解する							
2期		様々なスケールやコードの仕組みを修得する							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	メロディー、ハーモニーを構成するメジャースケールを理解する							
2	4月21日	様々な音程と音程の回転について理解し、1-8度、2-7度の音程を修得する							
3	5月12日	様々な音程と音程の回転について理解し、3-6度の音程を修得する							
4	5月19日	様々な音程と音程の回転について理解し、4-5度の音程を修得する							
5	5月26日	3つのマイナースケールの理解							
6	6月2日	マジャー、マイナースケールを様々なキーで理解							
7	6月16日	5度圏から応用して得られるいくつかの理論について							
8	6月23日	近親調について							
9	6月30日	基本の三和音の修得							
10	7月7日	基本の三和音を元に作られる四和音の修得							
11	8月18日	その他の三和音、四和音について							
12	8月25日	これまでのコードについて十分理解しているか総復習							
13	9月1日	ダイアトニックスケールとダイアトニックコードの理解							
14	9月8日	ディグリーネームの理解、ダイアトニックコードの役割について							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		音楽基礎 I B				担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1期		音楽の理論的側面に触れることによって、表現の可能性・多様性を知る							
2期		基礎的な知識を使って、意図的な音楽づくりができるようになる							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月14日	授業ガイダンス							
2	4月21日	スケール1							
3	5月12日	スケール2							
4	5月19日	調号 スケールと調号の関連性／記譜・読譜について							
5	5月26日	音程1							
6	6月2日	音程2							
7	6月16日	5度圏／近親調							
8	6月23日	コード1 基本的コードのしくみ							
9	6月30日	コード2 基本的コードの記譜、読譜、変化							
10	7月7日	コード3 その他のコードのしくみ、基本コードとの関連性について							
11	8月18日	コード4 その他のコードの記譜、読譜、変化							
12	8月25日	コード5 応用コード、特殊コード							
13	9月1日	コード6 スコアの中のコード							
14	9月8日	まとめと復習							
評価方法		定期試験点数(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		アンサンブル I		担当講師		川畑統正/中田有紀/松並姿帆	
講師実務経験		プロミュージシャン					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実技
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		課題曲を通じてアンサンブルとは何かを考える。					
2期		グループに分かれてオリジナル曲を作り上げる。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス/課題曲					
2	4月21日	課題曲①					
3	5月12日	課題曲②					
4	5月19日	課題曲③					
5	5月26日	課題曲④					
6	6月2日	課題曲⑤					
7	6月16日	グループ分け/オリジナル曲を作るにあたって					
8	6月23日	オリジナル曲作成①					
9	6月30日	オリジナル曲作成②					
10	7月7日	オリジナル曲作成③					
11	8月18日	オリジナル曲作成④					
12	8月25日	オリジナル曲作成⑤					
13	9月1日	オリジナル曲演奏					
14	9月8日	前期試験にむけて					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		リズム I		担当講師		神田 直樹	
講師実務経験		音楽教室・通信制高等学校勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音符を理解し、いいリズム感のゴールを設定する					
2期		リズムを身体を使って体感する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	音符について①					
3	5月13日	音符について②					
4	5月20日	いいリズム感について					
5	5月27日	リーディングとヒアリング					
6	6月3日	アクセントとモーションについて					
7	6月17日	リズムをパーカッションを使って体感する					
8	6月24日	カウントの重要性について					
9	7月1日	リズムの裏について					
10	7月8日	3連符について					
11	8月19日	シンコペーションについて					
12	8月26日	BeatとFeelについて					
13	9月2日	筆記テスト対策授業					
14	9月9日	実技テスト					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTM I				担当講師		谷津 祐子	
講師実務経験		大学非常勤講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	実習
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		MIDI機器の扱いを習得し、基本的な入力方法ができるようになる							
2 期		楽器や音色の特色を活かした音づくりを習得し、簡単なアレンジができるようになる							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月15日	授業ガイダンス							
2	4月22日	ステップレコード 1							
3	5月13日	ステップレコード 2							
4	5月20日	リアルタイム入力とクオンタイズ 1							
5	5月27日	リアルタイム入力とクオンタイズ 2							
6	6月3日	ショートカット							
7	6月17日	ペロシティ編集							
8	6月24日	デュレーション編集							
9	7月1日	ドラム入力							
10	7月8日	ボリュームとエクスペッション編集							
11	8月19日	テンポ／拍子／キーの編集							
12	8月26日	前期課題制作 1							
13	9月2日	前期課題制作 2							
14	9月9日	前期課題制作 3							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度（70%）平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）							

科目名		ヴォーカル実習Ⅰ		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	ヴォーカル専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		人前で声を出すことになれる、自分の声を知る					
2期		ヴォーカルテクニックの強化(2度～3度までのオルタードを含んだメロディー)					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	腹式・胸式呼吸、ブレスコントロール、ハミング					
2	4月23日	曲をそれぞれ持合い、アドバイス。今後の課題を見つける。					
3	5月14日	喉の開け方、ロングトーン、スタッカート、母音の発音					
4	5月21日	2度ソルフェージュ、メジャースケール					
5	5月28日	2度ソルフェージュ、メジャースケール1人ずつの歌唱					
6	6月4日	地声、ミドルボイスの違いを知り体感する					
7	6月18日	ミドルボイス、ファルセットの違い、つながりを知り体感する					
8	6月25日	日本語と英語の発音や、アクセントの違い					
9	7月2日	課題曲を用いて、リエゾンやアクセントを覚える					
10	7月6日	録音などもしながら、声を客観的に聴く					
11	7月9日	課題曲を用いて、2声のハーモニーをつける					
12	7月13日	2度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
13	8月17日	2度ソルフェージュ(マイナースケール)・3度ソルフェージュ					
14	8月20日	3度ソルフェージュ(メジャースケール・マイナースケール)					
15	8月24日	開く母音、閉じる母音、無声子音					
16	8月27日	録音などもしながら、評価しあう					
17	8月31日	uh～ah～コーラス、字ハモなど					
18	9月3日	3度ソルフェージュ(マイナースケール)					
19	9月7日	ハンドクラップ、足でステップを踏む					
20	9月10日	鏡を見て歌いながらハンドクラップ、マイクの使い方の確認					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習 I		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ギター専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ギター演奏上での基本技術・知識の修得					
2期		基礎を踏まえ、演奏への応用					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	実習内容について説明、楽器のセットアップ、基本エクササイズ					
2	4月23日	フォームチェック、ピッキングやフィンガリング、リズムについて					
3	5月14日	カッティングエクササイズ、ミュートやストロークについて					
4	5月21日	メジャースケールエクササイズ、インポジションについて					
5	5月28日	コードについて、オープンコード、バレーコードの基礎について					
6	6月4日	リズムコードについて①					
7	6月18日	リズムコードについて②					
8	6月25日	ブルースエクササイズを用いて、コード、リズムの応用					
9	7月2日	ブルースエクササイズを用いて、テーマの導入					
10	7月6日	メジャースケールエクササイズ、ブローケンポジションについて					
11	7月9日	マイナースケールについて①					
12	7月13日	マイナースケールについて②					
13	8月17日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行①					
14	8月20日	ブルース発展、ジャズフレーズのコード進行②					
15	8月24日	Funkリズムの導入、エクササイズ①					
16	8月27日	Funkリズムの導入、エクササイズ②					
17	8月31日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について①					
18	9月3日	課題曲への応用、インプロビゼーションの基本について②					
19	9月7日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など①					
20	9月10日	前期の内容の確認と復習、後期の内容の説明など②					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	ベース専攻		授業形態	実技実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		・ベースという楽器の基礎知識と基本的な演奏フォーム(左手、右手)を固める。 ・譜割り/ベーシックグループ ・記譜上の譜割りを演奏し、様々なリズムで演奏できるようになる。					
2期		・12キーのメジャースケールと、そこから派生するコードを理解し、演奏できるようになる。 ・ピック弾き、フィンガーピッキング、スラップの基礎を身につける。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業目標と内容の説明					
2	4月23日	チューニングと記譜音(実音)					
3	5月14日	クロマチック エクササイズ(ストレッチ)					
4	5月21日	右手の奏法～音質(ハンマリング、プリング)					
5	5月28日	譜割/ベーシックグループ					
6	6月4日	譜割/ベーシックグループ					
7	6月18日	メジャースケール					
8	6月25日	メジャースケール					
9	7月2日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
10	7月6日	アルペジオ(トライアド)～コード表記					
11	7月9日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
12	7月13日	12キーのメジャースケール/ハーモニー					
13	8月17日	セブンスコードと表記					
14	8月20日	ブルースベースライン					
15	8月24日	ペントニック～ブルーススケール					
16	8月27日	ペントニック～ブルーススケール②					
17	8月31日	ナチュラルマイナースケール/ハーモニー					
18	9月3日	ハーモニクマイナー/ハーモニー					
19	9月7日	メロディックマイナー/ハーモニー					
20	9月10日	実技修得度の確認					
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習		担当講師		岸林 大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	ドラム専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	20 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		演奏基礎(読譜)技術の修得、向上					
2期		Dr.Setへの積極的な応用、発展、読譜力の向上					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	ガイダンス、ストローク、Basic Workoutの導入					
2	4月23日	ストローク#2、Basic Workout					
3	5月14日	ストローク#3、Basic Woukout					
4	5月21日	Groove#1、Basic Woukout					
5	5月28日	Groove#2、Basic Woukout					
6	6月4日	Groove#3、Basic Woukout					
7	6月18日	Groove#4、Basic Woukout					
8	6月25日	Groove#5、Basic Woukout					
9	7月2日	Groove#6、Basic Woukout					
10	7月6日	Groove#7、ルーディメンツの導入#1、Basic Woukout					
11	7月9日	Groove#8、ルーディメンツの導入#2、Basic Woukout					
12	7月13日	Groove#9、ルーディメンツの導入#3、Basic Woukout					
13	8月17日	Groove#10、ルーディメンツの導入#4、Basic Woukout					
14	8月20日	Groove#11、ルーディメンツの導入#5、Basic Woukout					
15	8月24日	Groove#12、ルーディメンツの導入#6、Basic Woukout					
16	8月27日	Groove#13、ルーディメンツの導入#7、Basic Woukout、試験対策					
17	8月31日	Groove#14、Fill Concept#1、Basic Woukout、試験対策					
18	9月3日	Groove#15、Fill Concept#2、Basic Woukout、試験対策					
19	9月7日	Groove#16、Fill Concept#3、Basic Woukout、試験対策					
20	9月10日	実技習得度の確認、試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) ※実技習得度評価時期・方法:					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		60時間中21時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		K e y 実 習				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース		授業形態	実習	
期 間		1期・2期	総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135	分
期		修 得 目 標							
1期		コードやリズムを理解する							
2期		作曲や編曲をする際のキーボード活用や演奏							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月16日	トレーニング方法とスケール運指の原則を理解する							
2	4月23日	#b 1つのメジャースケールとトライアドの構成音を修得							
3	5月14日	#b 2つのメジャースケールとトライアド+6th,7th,M7th							
4	5月21日	#3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
5	5月28日	b 3つのメジャースケールとコードアルペジオ							
6	6月4日	# 4つのメジャースケールとコード転回、ピアノ曲イントロ							
7	6月18日	b 4つのメジャースケールとコード転回							
8	6月25日	augやb 5の修得、ピアノ曲Aメロ～							
9	7月2日	diminishの修得							
10	7月9日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習①ソロピアノ曲練習							
11	8月20日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習②ソロピアノ曲練習							
12	8月27日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習③ソロピアノ曲練習							
13	9月3日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習④ソロピアノ曲練習							
14	9月10日	コードネームから連続したコード進行を弾く練習⑤ソロピアノ曲練習							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		スコアⅠ				担当講師		水口 陽子	
講師実務経験		ピアノ講師							
対象学年		1	学年	対象専攻	ミュージシャンコース			授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標							
1 期		楽譜における記号や決まり事を理解する。							
2 期		「読むことが出来る」「書くことが出来る」を目指す。							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月17日	五線の仕組みを知り、低い音、高い音の表し方を理解する。							
2	4月24日	音符と休符の長さを表す仕組みを理解する。							
3	5月8日	符点の仕組みを知り、音符と休符全般について理解する。							
4	5月15日	連符の仕組みを理解する							
5	5月22日	拍子の種類と表し方の決まり事を理解する							
6	5月29日	正しい連行で理解しやすい楽譜になる事の理解							
7	6月5日	タイなどを用いながら正しい連桁ができる							
8	6月19日	拍子による連行の違いやルールを理解する							
9	6月26日	色々な場面での強拍の移動を理解する							
10	7月3日	それぞれの記号のルールを理解し演奏順序を理解する							
11	7月10日	「見やすい」楽譜の作成							
12	8月21日	ポピュラー音楽に必要なものを修得する							
13	8月28日	楽譜からコードを導いている音を理解する							
14	9月4日	「見やすい」楽譜の作成を移調して作成する							
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト									
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師	田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について				
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について				
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師	菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間	1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成				
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ				
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		イベント制作 I		担当講師		城地 紀子	
講師実務経験		公共文化ホール・文化施設 勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサートイベント専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90/45 分
期		修 得 目 標					
1 期		コンサートやイベント現場で必要となる基礎知識を修得する。					
2 期		コンサートやイベントにおける制作業務を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	オリエンテーション。 制作業務・舞台の概要について					
2	4月20日	コンサートやイベント時のスタッフ構成、役割について					
3	5月11日	舞台基礎①(尺貫法、緞帳及び幕類、吊もの等)					
4	5月18日	舞台基礎②(舞台図面の見方等)					
5	5月25日	舞台で使用する道具の名称、用途、寸法について【基礎】					
6	6月1日	舞台で使用する道具の名称、用途、寸法について【実践】					
7	6月22日	ケーブルの巻き方、バミリ等について					
8	6月29日	コンサート、イベントにおける舞台専門用語について					
9	7月6日	特殊効果について					
10	7月13日	施設利用について					
11	8月17日	イベントのスケジュールを知る①					
12	8月24日	イベントのスケジュールを知る②					
13	8月31日	イベントのスケジュールを知る③					
14	9月7日	1、2期を振り返り試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		16時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		プランニング I		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサートイベント専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
5期		定期公演へ向け、幅広い情報収集と発想に基づく企画力と、コミュニケーションを重視したチームワークを習得する。					
6期		定期公演での経験と反省をもとに、ターゲット・目的を仮定したイベント企画を行うことで、企画案と実施案制作スキルの向上を図る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	5年後／10年後の目標を設定し、目標を持つ事の大切さを学ぶ。 様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。情報を常に収集すること。					
2	4月20日	企画の仕事が何故存在できるのか、その根源を考える。 クライアントと顧客、双方の視点から企画を考える。					
3	5月11日	企業の商品化計画（マーチャンダイジング）の流れを学ぶ。					
4	5月18日	企画の実践① ブレインストーミング、A+B=Cの発想法とは何か、基本ルールを学ぶ。 課題提示と下調べについて（新しいスイーツを考える）					
5	5月25日	企画の実践② 班ごとにブレインストーミング					
6	6月1日	企画の実践③ 班ごとにブレインストーミング					
7	6月22日	企画の実践④ プレゼンテーション					
8	6月29日	企画書制作① 何のために作るのか、基本的な構成と、見やすい企画書のポイント 課題提示と下調べについて（北海道の地元密着アイドルグループを作る）					
9	7月6日	企画書制作② 班ごとにブレインストーミング。					
10	7月13日	企画書制作③ A4用紙に企画内容をまとめる。					
11	8月17日	班ごとにプレゼンテーション。 プレストからプレゼンテーションまでの流れを整理（プレゼンテーションにも準備が必要）。					
12	8月24日	企画＝発想＋情報 毎日できるプランニング力の強化法。					
13	8月31日	イベントの目的・ターゲット・自己評価について 広告という側面がある以上、「うまく進行できた」ことだけで成功とは言えない。					
14	9月7日	原価・売値・利益・利益率を学び、計算方法を知る。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		照明基礎実習 I		担当講師	向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	コンサート・イベント、サウンド・ステージ 各専攻		授業形態	実習
期 間	1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		舞台照明の基礎を学び、機材や作業工程を理解していく。				
2期		不具合が生じた時のトラブルシュートについても理解していける様な応用力を身につける。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月14日	自己紹介。授業ガイダンス。時間によりケーブルの種類やケーブルの巻き方。				
2	4月21日	照明機材の説明、照明用語等について				
3	5月12日	仕込みをして、実際に点灯させる				
4	5月19日	機材によって違って見えるカラーフィルターについて				
5	5月26日	復習①(仕込み、シュート)				
6	6月2日	復習①(仕込み、シュート)				
7	6月16日	フロアに機材を仕込み、シュート名称、床配線の仕方について				
8	6月23日	サス上での配線ケーブルの処理方法、吊り物のシュート内容で変わるシュート名称について				
9	6月30日	仕込む時に大切になる吊り間隔を学び、シュートの際に生じる不具合について				
10	7月7日	仕込みから仮シュートまでできるように学ぶ。夏休み明けの授業について				
11	8月18日	機材の復習、高建端のシュートの仕方や注意点について				
12	8月25日	トラスの前後間隔で生じる機材やケーブルの処理方法について				
13	9月1日	仕込み手順を再度確認する。質疑応答。トラブルシュートの仕方について				
14	9月8日	実技試験。筆記試験についての説明等。				
評価方法		定期試験点数(70%)実技修得度(30%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト						
注意事項		15回中6回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名		PA基礎実習 I		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサート・イベント専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	10 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		マイクケーブル、マイクスタンドの基本的な取り扱いが出来るようになる					
2期		簡易PAシステムの設置 & PAの仕事を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	オリエンテーション、ケーブル巻き					
	4月21日						
2	5月12日	PAセクションの仕事の概要説明、ケーブル巻き、マイク、マイクスタンドの取り扱い					
	5月19日						
3	5月26日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い					
	6月2日						
4	6月16日	PA機材の名称、取り扱い等を理解					
	6月23日						
5	6月30日	PA機材の名称、取り扱い等を理解					
	7月6日						
6	7月7日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解					
	7月13日						
7	8月17日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)					
	8月18日						
8	8月24日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習					
	8月25日						
9	8月31日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験					
	9月1日						
10	9月7日	定期試験対策問題					
	9月8日						
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		30時間中11時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		DTP実習 I		担当講師		金田一 樹生	
講師実務経験		広告制作会社に勤務後独立					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサートイベント専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		イラストレータの操作技術の取得					
2期		イラストレータの技術向上とフォトショップ操作技術の取得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	【A班】授業ガイダンス、デザインとはなにか					
2	4月21日	【B班】授業ガイダンス、デザインとはなにか					
3	5月12日	【A班】イラストレーターを使ったデータの作成1					
4	5月19日	【B班】イラストレーターを使ったデータの作成1					
5	5月26日	【A班】イラストレーターを使ったデータの作成2					
6	6月2日	【B班】イラストレーターを使ったデータの作成2					
7	6月16日	【A班】イラストレーターを使ったデータの作成3					
8	6月23日	【B班】イラストレーターを使ったデータの作成3					
9	6月30日	【A班】イラストレーターのスキル向上、作業の効率化について					
10	7月7日	【B班】イラストレーターのスキル向上、作業の効率化について					
11	8月18日	【A班】フォトショップを使ったデータの作成1					
12	8月25日	【B班】フォトショップを使ったデータの作成1					
13	9月1日	【A班】フォトショップを使ったデータの作成2					
14	9月8日	【B班】フォトショップを使ったデータの作成2					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		業界研究		担当講師	各担任	
講師実務経験		各実務経験				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間	1期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標				
1期		音楽・放送業界を広く浅く理解し、どのような業種・職種があるのか、またどんな仕事をしているのか、どんな役割を果たしているのか等を理解し、見聞を広める。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月15日	ミュージシャン業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
2	4月22日	PA・音響業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
3	5月13日	レコーディング業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
4	5月20日	コンサート・イベント業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
5	5月27日	照明業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
6	6月3日	テレビ番組業界とラジオ番組業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
7	6月24日	Web動画・PV制作業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。将来、自分が携わりたい道(職種)を明確化して文章記述する。				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		必要資料を適宜配布				
注意事項		7時間中3時間以上の欠席で修得済評価不可＝進級できません				

科目名		ペン字講座		担当講師		大島 晴美	
講師実務経験		書峰社書道勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書作成に向けてきれいな美しい文字の書き方を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	ひらがな、カタカナ					
2	4月24日	漢字(横書き・熟語)					
3	5月8日	横書き文章					
4	5月15日	横書き(俳句)					
5	5月22日	札幌市区、ハガキあて名書き					
6	5月29日	履歴書1					
7	6月5日	履歴書2					
8	6月19日	履歴書3、試験					
9	6月26日	履歴書4					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません＝留年となります					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		本校の就職システム、内定までの流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月1日	就職システムの説明①					
2	7月8日	就職システムの説明②					
3	8月19日	求人票の見方①					
4	8月26日	求人票の見方②					
5	9月2日	求人検索方法					
6	9月9日	企業情報提供					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		6時間中3時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月3日	就職活動の流れ					
2	7月10日	働くということ					
3	8月21日	自己分析					
4	8月28日	自己PR作成					
5	9月4日	企業研究のしかた					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		5時間中2時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	基礎的な電気について					
3	5月13日	直流と交流とオームの法則について					
4	5月20日	直列・並列及び合成抵抗について					
5	5月27日	直流と交流及び周波数について					
6	6月3日	交流電力について					
7	6月17日	単相交流と三相交流について					
8	6月24日	分電盤・遮断器について					
9	7月1日	工具及びテスターの使い方					
10	7月8日	配線図と記号について					
11	8月19日	電気容量計算について					
12	8月26日	発電機からの電源について					
13	9月2日	電気の安全な取り扱いについて					
14	9月9日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音楽の3要素・五線・小節線・音部記号について					
3	5月14日	音符と休符及び付点音符と付点休符について					
4	5月21日	前回の音符・休符の種類の復習及び練習問題					
5	5月28日	小節と拍子。拍の強弱・アウフタクト・シンコペーション等について					
6	6月4日	楽器の大別・弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器の種類及び合奏形態について					
7	6月18日	AG・EG、Gアンプ種類及び特徴、アンプの使い方及びドラム名称、楽器略号について					
8	6月25日	変化記号の種類及び用途と、異名同音について					
9	7月2日	音の表現及びスケールについて					
10	7月9日	調号、平行調、同主調について					
11	8月20日	調号から主音を見つけだす					
12	8月27日	五度圏について					
13	9月3日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
14	9月10日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		札幌のレコーディングスタジオに勤務、各種音響、録音、ゲームSE制作、CM同録など経験、以降フリーランスになってからも同業、各種音響、録音を仕事とする。					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月13日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月20日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	5月27日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月3日	インターネット通信について					
7	6月17日	デジタルと音について					
8	6月24日	デジタルと映像について					
9	7月1日	パソコンと各種コネクタについて					
10	7月8日	デジタルとの共存について					
11	8月19日	身近なものとデジタルについて					
12	8月26日	デジタル機材について					
13	9月2日	デジタル機材と操作について					
14	9月9日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/22、5/13、5/20)					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		マスメディア		担当講師		高橋 学		
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセランパセラン代表。						
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組			授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間			45 分
期		修 得 目 標						
1期		映画を中心として、さまざまな映像コンテンツの知識を修得する。						
2期		映像の知識を中心に、技術も学んでいく。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	10月7日	授業ガイダンス						
2	10月14日	映像の基本的なルール①(基本編)について						
3	10月21日	映像の読み取り能力①(基本編)について						
4	10月28日	映像の基本的なルール②(応用編)について						
5	11月4日	映画、テレビ、CM、PV、Webコンテンツのそれぞれの映像の特徴						
6	11月11日	プリプロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
7	11月18日	プリプロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
8	11月25日	プロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
9	12月2日	プロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
10	12月16日	ポストダクションにおける映像の知識①(基本編)						
11	1月20日	ポストダクションにおける映像の知識②(応用編)						
12	1月27日	最新の映像技術について						
13	1月3日	映像の読み取り能力②(応用編)について						
14	1月10日	ショートコンテンツに特化した映像知識						
15	1月17日	まとめ&試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		15時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を習得する					
2期		音の聞こえ方や様々な効果を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月14日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月21日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	5月28日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月4日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月18日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月25日	正相、逆相等					
9	7月2日	音の性質					
10	7月9日	室内での音の動き等					
11	8月20日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月27日	カクテルパーティー効果					
13	9月3日	マスキング効果					
14	9月10日	ハース効果、、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月14日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月21日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	5月28日	ヘルメット					
6	6月4日	ラッシングベルト					
7	6月18日	機材の運搬					
8	6月25日	安全帯					
9	7月2日	健康管理と日常生活他					
10	7月9日	火気の使用他					
11	8月20日	精神的な注意事項他					
12	8月27日	始業時の打ち合わせ他					
13	9月3日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他					
14	9月10日	部門別作業について他、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 各専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台・テレビ照明の概要および光について修得する。					
2期		演出効果や美的効果を高める照明について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	照明家の仕事および考え方について					
3	5月14日	舞台照明とテレビ照明の相違点について					
4	5月21日	光の知識、眼やカメラの構造について					
5	5月28日	物を見るときの生理的な働きについて					
6	6月4日	光の単位について					
7	6月18日	人物の基本照明の種類について					
8	6月25日	光の方向と配分について					
9	7月2日	照明の演出・美的効果について					
10	7月9日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
11	8月20日	色彩による効果、光の三原色について					
12	8月27日	色彩の対比、白と黒との効果について					
13	9月3日	色温度について					
14	9月10日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		運営サイドとして関わるイベントとは何かを理解、修得する。					
2期		イベントの作られ方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	自己紹介、授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。					
2	4月22日	イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	5月13日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／PAと照明					
4	5月20日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／MCとプランナー					
5	5月27日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／ディレクター					
6	6月3日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／プロデューサー					
7	6月17日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／主催・後援・協力					
8	6月24日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／会場の条件					
9	7月1日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報1:マスメディア					
10	7月8日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報2:ネットメディア					
11	8月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報3:SNS					
12	8月26日	イベントに関わる各セクションの連携とコミュニケーションの重要性を学ぶ。					
13	9月2日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
14	9月9日	イベントに関わるものとして最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師	森 良太		
講師実務経験		音響会社勤務						
対象学年		1	学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標						
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。						
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月17日	授業ガイダンス						
2	4月24日	ドラムセットの各名称と種類について						
3	5月8日	ドラムセットの各仕組みと構造について						
4	5月15日	ギター、ベースの種類と構造について						
5	5月22日	ギター、ベースの各部名称について						
6	5月29日	ギター、ベースアンプについて						
7	6月5日	鍵盤楽器の種類と構造について						
8	6月19日	電子鍵盤楽器の種類と構造について						
9	6月26日	木管楽器、金管楽器について						
10	7月3日	和楽器について						
11	7月10日	ドラムセットの実物に触れ、知識を深める						
12	8月21日	ギター、ベースの実物に触れ、知識を深める						
13	8月28日	鍵盤楽器の実物に触れ、知識を深める						
14	9月4日	試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト		プリント配布						
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		舞台論		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		劇場の歴史や基本的な知識および設備について修得する。					
2期		舞台の専門用語やスタッフおよび安全管理について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	西洋の上演芸術や劇場史について					
3	5月13日	日本の上演芸術や劇場史について					
4	5月20日	舞台の基本、平面・断面・寸法について					
5	5月27日	幕類用吊物設備について					
6	6月3日	照明用吊物設備について					
7	6月17日	大道具用および音響反射板・スクリーンなどの吊物設備について					
8	6月24日	舞台の床機構について					
9	7月1日	舞台の照明設備について					
10	7月8日	幕類・照明に関する専門用語について					
11	8月19日	公演・舞台に関する専門用語について					
12	8月26日	機構・道具に関する専門用語について					
13	9月2日	スタッフ・安全管理および労働災害防止について					
14	9月9日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサート・イベント制作専攻		授業形態	実習
期 間		2期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
2期		Word、Excel、PowerPointの基本機能と操作を修得					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月6日	Wordでビジネス文書を作成し表、図形描画、ワードアートの挿入・編集を学ぶ。 ワープロ検定準2級問題の演習問題を解く。					
	7月13日						
		Excel、PowerPointの基本機能と操作を学ぶ Excel: よく使用する関数の習得 PowerPoint: スライドの作成方法を習得					
2	8月17日	Wordによるビジュアル文書作成演習 Excelの様々な関数(桁数処理関数、論理関数、関数のネスト等)を習得し、問題を解く					
	8月24日						
		Excel: 情報処理検定3級問題を解く。グラフの作成と編集を習得 PowerPoint: 3級問題を元にスライドの作成し、デザイン、図形、表の使い方を習得					
3	8月31日	Word: ビジネス文書演習。図形、表、図を挿入した文書を作成する。 Excel: 情報処理検定3級問題を解く。 PowerPoint: 3級問題を元にスライドの作成し、演習問題を解く。					
	9月7日						
		Word: 試験実施 Excel: 試験実施 PowerPoint: 3級問題を元にスライドの作成し、演習問題を解く。					
評価方法		実技修得度(100%) 平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下)					
テキスト							
注意事項		18時間中7時間以上の欠席で進級できません(留年となります)					

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		PA実習 I A		担当講師		田上 涼	
講師実務経験		ライブハウス勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	サウンド・ステージ専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		音響機材に触れ、基本的な使い方を習得する。					
2期		音の流れを理解し、スタンドスピーカーシステムのセットアップを習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日	授業ガイダンス					
2	5月11日 5月18日	マイクケーブルの取り扱い(巻き方、結び方) マイクスタンドの取り扱い(組み立て方、構造の理解)					
3	5月25日 6月1日	マイクケーブルとマイクスタンドの取り扱い方復習					
4	6月22日 6月29日	ケーブル引き回し 電源の取り方 はわせ方					
5	7月9日 7月13日	スタンドスピーカーシステムのセットアップ①(仕込み、機材の使い方)					
6	8月17日 8月24日	スタンドスピーカーシステムのセットアップ②(グループに分けて繰り返し仕込む)					
7	8月31日 9月7日	実技習得度確認 筆記試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		21時間中8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		PA実習 I B		担当講師		斎藤 康次/千葉 諭	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	サウンド・ステージ専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		PAにおける、基本的な信号の流れについて修得する。					
2期		スタンドスピーカーシステムを使用する基本操作技術を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日	授業ガイダンス					
2	5月11日 5月18日	PAシステムの音の流れ把握					
3	5月25日 6月1日	コンソール内の音の流れ把握					
4	6月22日 6月29日	ステージ上のマイクの音を出す					
5	7月9日 7月13日	スタンドスピーカーシステムの実践と回線チェックについて					
6	8月17日 8月24日	基本的なCD音源の操作					
7	8月31日 9月7日	試験対策 前期のまとめ					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		21時間中8時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音響概論Ⅰ		担当講師		田上 涼	
講師実務経験		ライブハウス勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	サウンド・ステージ専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		PA機材の、基本的な知識とその仕組みを習得する					
2期		PAをする上で基本となる知識と音響用語の意味を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス					
2	4月21日	機材の紹介とその仕組みについて①(コネクタ、ケーブル)					
3	5月12日	機材の紹介とその仕組みについて②(マイクロフォン、DI)					
4	5月19日	機材の紹介とその仕組みについて③(PAシステムについて)					
5	5月26日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ①(音について)					
6	6月2日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ②(音について)					
7	6月16日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ③(電気)					
8	6月23日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ④(音響用語について)					
9	6月30日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ⑤(音響用語について)					
10	7月7日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ⑥(音響用語について)					
11	8月18日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ⑦(音響用語について)					
12	8月25日	用語基準による各授業内容の復習と結びつけ⑧(音響用語について)					
13	9月1日	はんだごてと、工具について					
14	9月8日	授業の復習と定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		照明基礎実習 I		担当講師		向出 敦子	
講師実務経験		照明会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	コンサート・イベント、サウンド・ステージ 各専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台照明の基礎を学び、機材や作業工程を理解していく。					
2期		不具合が生じた時のトラブルシュートについても理解していける様な応用力を身につける。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	自己紹介。授業ガイダンス。時間によりケーブルの種類やケーブルの巻き方。					
2	4月21日	照明機材の説明、照明用語等について					
3	5月12日	仕込みをして、実際に点灯させる					
4	5月19日	機材によって違って見えるカラーフィルターについて					
5	5月26日	復習①(仕込み、シュート)					
6	6月2日	復習①(仕込み、シュート)					
7	6月16日	フロアに機材を仕込み、シュート名称、床配線の仕方について					
8	6月23日	サス上での配線ケーブルの処理方法、吊り物のシュート内容で変わるシュート名称について					
9	6月30日	仕込む時に大切になる吊り間隔を学び、シュートの際に生じる不具合について					
10	7月7日	仕込みから仮シュートまでできるように学ぶ。夏休み明けの授業について					
11	8月18日	機材の復習、高建端のシュートの仕方や注意点について					
12	8月25日	トラスの前後間隔で生じる機材やケーブルの処理方法について					
13	9月1日	仕込み手順を再度確認する。質疑応答。トラブルシュートの仕方について					
14	9月8日	実技試験。筆記試験についての説明等。					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		15回中6回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		業界研究		担当講師	各担任	
講師実務経験		各実務経験				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間	1 期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		45 分
期	修 得 目 標					
1期	音楽・放送業界を広く浅く理解し、どのような業種・職種があるのか、またどんな仕事をしているのか、どんな役割を果たしているのか等を理解し、見聞を広める。					
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月15日	ミュージシャン業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
2	4月22日	PA・音響業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
3	5月13日	レコーディング業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
4	5月20日	コンサート・イベント業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
5	5月27日	照明業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
6	6月3日	テレビ番組業界とラジオ番組業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
7	6月24日	Web動画・PV制作業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。将来、自分が携わりたい道(職種)を明確化して文章記述する。				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		必要資料を適宜配布				
注意事項		7時間中3時間以上の欠席で修得済評価不可＝進級できません				

科目名		ペン字講座		担当講師		大島 晴美	
講師実務経験		書峰社書道勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書作成に向けてきれいな美しい文字の書き方を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	ひらがな、カタカナ					
2	4月24日	漢字(横書き・熟語)					
3	5月8日	横書き文章					
4	5月15日	横書き(俳句)					
5	5月22日	札幌市区、ハガキあて名書き					
6	5月29日	履歴書1					
7	6月5日	履歴書2					
8	6月19日	履歴書3、試験					
9	6月26日	履歴書4					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません＝留年となります					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		本校の就職システム、内定までの流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月1日	就職システムの説明①					
2	7月8日	就職システムの説明②					
3	8月19日	求人票の見方①					
4	8月26日	求人票の見方②					
5	9月2日	求人検索方法					
6	9月9日	企業情報提供					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		6時間中3時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月3日	就職活動の流れ					
2	7月10日	働くということ					
3	8月21日	自己分析					
4	8月28日	自己PR作成					
5	9月4日	企業研究のしかた					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		5時間中2時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		PA基礎実習		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	サウンド・ステージ専攻(2期専攻)		授業形態	実習
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		音響機材に触れ音響業務の初歩について理解を深める					
2期		より専門的な内容について実習を通して理解を深める					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月6日	各機材の扱いについて(ケーブルの巻き方、マイク、マイクスタンドの扱い)					
2	7月13日	各機材の仕組みについて(スピーカー、ミキサーについて)					
3	8月17日	簡易的なセットを組んでみて、実際に音を出してみるA					
4	8月24日	各機材の仕組みについて(スピーカー、ミキサーについて)B					
5	8月31日	簡易的なセットを組んでみて、実際に音を出してみるA					
6	9月7日	簡易的なセットを組んでみて、実際に音を出してみるB					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		18時間中7時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	基礎的な電気について					
3	5月13日	直流と交流とオームの法則について					
4	5月20日	直列・並列及び合成抵抗について					
5	5月27日	直流と交流及び周波数について					
6	6月3日	交流電力について					
7	6月17日	単相交流と三相交流について					
8	6月24日	分電盤・遮断器について					
9	7月1日	工具及びテスターの使い方					
10	7月8日	配線図と記号について					
11	8月19日	電気容量計算について					
12	8月26日	発電機からの電源について					
13	9月2日	電気の安全な取り扱いについて					
14	9月9日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音楽の3要素・五線・小節線・音部記号について					
3	5月14日	音符と休符及び付点音符と付点休符について					
4	5月21日	前回の音符・休符の種類の復習及び練習問題					
5	5月28日	小節と拍子。拍の強弱・アウフタクト・シンコペーション等について					
6	6月4日	楽器の大別・弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器の種類及び合奏形態について					
7	6月18日	AG・EG、Gアンプ種類及び特徴、アンプの使い方及びドラム名称、楽器略号について					
8	6月25日	変化記号の種類及び用途と、異名同音について					
9	7月2日	音の表現及びスケールについて					
10	7月9日	調号、平行調、同主調について					
11	8月20日	調号から主音を見つけだす					
12	8月27日	五度圏について					
13	9月3日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
14	9月10日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		札幌のレコーディングスタジオに勤務、各種音響、録音、ゲームSE制作、CM同録など経験、以降フリーランスになってからも同業、各種音響、録音を仕事とする。					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月13日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月20日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	5月27日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月3日	インターネット通信について					
7	6月17日	デジタルと音について					
8	6月24日	デジタルと映像について					
9	7月1日	パソコンと各種コネクターについて					
10	7月8日	デジタルとの共存について					
11	8月19日	身近なものとデジタルについて					
12	8月26日	デジタル機材について					
13	9月2日	デジタル機材と操作について					
14	9月9日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/22、5/13、5/20)					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		マスメディア		担当講師		高橋 学		
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセランパセラン代表。						
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組			授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間			45 分
期		修 得 目 標						
1期		映画を中心として、さまざまな映像コンテンツの知識を修得する。						
2期		映像の知識を中心に、技術も学んでいく。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	授業ガイダンス						
2	4月22日	映像の基本的なルール①(基本編)について						
3	5月13日	映像の読み取り能力①(基本編)について						
4	5月20日	映像の基本的なルール②(応用編)について						
5	5月27日	映画、テレビ、CM、PV、Webコンテンツのそれぞれの映像の特徴						
6	6月3日	プリプロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
7	6月17日	プリプロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
8	6月24日	プロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
9	7月1日	プロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
10	7月8日	ポストダクションにおける映像の知識①(基本編)						
11	8月19日	ポストダクションにおける映像の知識②(応用編)						
12	8月26日	最新の映像技術について						
13	9月2日	映像の読み取り能力②(応用編)について						
14	9月9日	ショートコンテンツに特化した映像知識						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を習得する					
2期		音の聞こえ方や様々な効果を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月14日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月21日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	5月28日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月4日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月18日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月25日	正相、逆相等					
9	7月2日	音の性質					
10	7月9日	室内での音の動き等					
11	8月20日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月27日	カクテルパーティー効果					
13	9月3日	マスキング効果					
14	9月10日	ハース効果、、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月14日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月21日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	5月28日	ヘルメット					
6	6月4日	ラッシングベルト					
7	6月18日	機材の運搬					
8	6月25日	安全帯					
9	7月2日	健康管理と日常生活他					
10	7月9日	火気の使用他					
11	8月20日	精神的な注意事項他					
12	8月27日	始業時の打ち合わせ他					
13	9月3日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他					
14	9月10日	部門別作業について他、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台・テレビ照明の概要および光について修得する。					
2期		演出効果や美的効果を高める照明について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	照明家の仕事および考え方について					
3	5月14日	舞台照明とテレビ照明の相違点について					
4	5月21日	光の知識、眼やカメラの構造について					
5	5月28日	物を見るときの生理的な働きについて					
6	6月4日	光の単位について					
7	6月18日	人物の基本照明の種類について					
8	6月25日	光の方向と配分について					
9	7月2日	照明の演出・美的効果について					
10	7月9日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
11	8月20日	色彩による効果、光の三原色について					
12	8月27日	色彩の対比、白と黒との効果について					
13	9月3日	色温度について					
14	9月10日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		運営サイドとして関わるイベントとは何かを理解、修得する。					
2期		イベントの作られ方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	自己紹介、授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。					
2	4月22日	イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	5月13日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／PAと照明					
4	5月20日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／MCとプランナー					
5	5月27日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／ディレクター					
6	6月3日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／プロデューサー					
7	6月17日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／主催・後援・協力					
8	6月24日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／会場の条件					
9	7月1日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報1:マスメディア					
10	7月8日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報2:ネットメディア					
11	8月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報3:SNS					
12	8月26日	イベントに関わる各セクションの連携とコミュニケーションの重要性を学ぶ。					
13	9月2日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
14	9月9日	イベントに関わるものとして最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師	森 良太		
講師実務経験		音響会社勤務						
対象学年		1	学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	45 分
期		修 得 目 標						
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。						
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月17日	授業ガイダンス						
2	4月24日	ドラムセットの各名称と種類について						
3	5月8日	ドラムセットの各仕組みと構造について						
4	5月15日	ギター、ベースの種類と構造について						
5	5月22日	ギター、ベースの各部名称について						
6	5月29日	ギター、ベースアンプについて						
7	6月5日	鍵盤楽器の種類と構造について						
8	6月19日	電子鍵盤楽器の種類と構造について						
9	6月26日	木管楽器、金管楽器について						
10	7月3日	和楽器について						
11	7月10日	ドラムセットの実物に触れ、知識を深める						
12	8月21日	ギター、ベースの実物に触れ、知識を深める						
13	8月28日	鍵盤楽器の実物に触れ、知識を深める						
14	9月4日	試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト		プリント配布						
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		舞台論		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		劇場の歴史や基本的な知識および設備について修得する。					
2期		舞台の専門用語やスタッフおよび安全管理について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	西洋の上演芸術や劇場史について					
3	5月13日	日本の上演芸術や劇場史について					
4	5月20日	舞台の基本、平面・断面・寸法について					
5	5月27日	幕類用吊物設備について					
6	6月3日	照明用吊物設備について					
7	6月17日	大道具用および音響反射板・スクリーンなどの吊物設備について					
8	6月24日	舞台の床機構について					
9	7月1日	舞台の照明設備について					
10	7月8日	幕類・照明に関する専門用語について					
11	8月19日	公演・舞台に関する専門用語について					
12	8月26日	機構・道具に関する専門用語について					
13	9月2日	スタッフ・安全管理および労働災害防止について					
14	9月9日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師	田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について				
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について				
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師		岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル					
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In					
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		舞台照明 I		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ライティング専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		270 分
期		修 得 目 標					
1期		照明機材、舞台設備・機構を中心とした基礎知識を修得する。(3時間)					
2期		照明の作業工程を修得する。(6時間)					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。舞台機構、用語について					
2	4月20日	照明機材について①					
3	5月11日	照明機材について②、アナログとデジタルについて					
4	5月18日	仕込について①					
5	5月25日	仕込について②					
6	6月1日	ピンスポットの構造、組み立て、操作について①					
7	6月22日	ピンスポットの構造、組み立て、操作について②					
8	6月29日	電気容量、ケーブルやコネクタについて					
9	7月6日	カラーフィルター、光の演出、用途について					
10	7月13日	事前準備について					
11	8月17日	安全の重要性について					
12	8月24日	システムとデジタル機器について①					
13	8月31日	システムとデジタル機器について②					
14	9月7日	作業分担、それぞれの立ち回りについて					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		PA基礎実習 I		担当講師	久本 晃三		
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ライティング専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		マイクケーブル、マイクスタンドの基本的な取り扱いが出来るようになる					
2期		簡易PAシステムの設置 & 簡易PAシステムの設置 & PAの仕事を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	オリエンテーション、ケーブル巻き					
2	4月21日	PAセクションの仕事の概要説明、ケーブル巻き、マイク、マイクスタンドの取り扱い					
3	5月12日	PAセクションの仕事の概要説明、マイクスタンドの取り扱い					
4	5月19日	PA機材の名称、取り扱い等を理解					
5	5月26日	PA機材の名称、取り扱い等を理解					
6	6月2日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解					
7	6月16日	PA機材のセッティング手順及ぼバラシ手順を理解					
8	6月23日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)					
9	6月30日	スピーカーから音を出す(音の出る仕組み)					
10	7月7日	モニタースピーカーを設置して、AUXを使って音を出してみる。					
11	8月18日	PAセクションにとって、サウンドチェック、モニターチェック、リハーサルとは					
12	8月25日	ケーブルを綺麗に早く巻けるよう練習					
13	9月1日	ケーブルを綺麗に早く巻く実技試験					
14	9月8日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数(50%)実技修得度(50%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		カラーコーディネイト		担当講師	木村 真祐美		
講師実務経験		企業等において色彩教育・研修や講演、医療施設の色彩設計・カラーアドバイス、イベント出演等、これまで延べ5000名以上の方へ色彩に関する講義、カウンセリングを行っている。					
対象学年		1 学年	対象専攻	ライティング専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		色彩の基礎知識を知り、色を身近に感じ楽しみ興味を持って活用できることを目標とする。					
2期		色の持つ効果を知り、仕事に役立つ実践的な色彩の知識を修得する。色に関する感性を磨き、照明プランニング、舞台制作等に役立てることを目標とする。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス					
2	4月21日	色の働きと色の見える仕組みについて					
3	5月12日	色彩基礎知識について①					
4	5月19日	色彩基礎知識について②					
5	5月26日	色の感情作用、知覚的效果について					
6	6月2日	色とイメージの関係について①					
7	6月16日	色とイメージの関係について②					
8	6月23日	カラーセラピー（色彩心理）について①					
9	6月30日	カラーセラピー（色彩心理）について②					
10	7月10日	色彩調和（配色テクニック）について					
11	8月18日	パーソナルカラー（似合う色）について①					
12	8月25日	パーソナルカラー（似合う色）について②					
13	9月1日	ビジュアルデザインと色彩の関係について					
14	9月8日	定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		映像概論		担当講師		平野 雄司	
講師実務経験		番組制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ライティング専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間	45 分	
期		修 得 目 標					
1期		照明を担当する立場から映像を理解する。					
2期		実際に様々な作品を見て照明が映像にどう関わっているのかを学ぶ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス					
2	4月21日	テレビ照明と舞台照明の違いについて					
3	5月12日	映像制作する際、照明の仕事のスタート地点はどこにあるのか					
4	5月19日	情報系番組の映像について					
5	5月26日	テレビの音楽番組の映像について					
6	6月2日	舞台の映像について					
7	6月16日	テレビドラマの映像について					
8	6月23日	時代劇と現代劇の映像について					
9	6月30日	映像に関わる季節や時間について					
10	7月7日	プロモーションビデオの映像について					
11	8月18日	記録映像、学術映像、WEBなどの映像について					
12	8月25日	照明が演出する映像について					
13	9月1日	CM作品の映像について					
14	9月8日	授業のまとめと定期試験について					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		業界研究		担当講師	各担任		
講師実務経験		各実務経験					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽・放送業界を広く浅く理解し、どのような業種・職種があるのか、またどんな仕事をしているのか、どんな役割を果たしているのか等を理解し、見聞を広める。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	ミュージシャン業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
2	4月22日	PA・音響業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
3	5月13日	レコーディング業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
4	5月20日	コンサート・イベント業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
5	5月27日	照明業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
6	6月3日	テレビ番組業界とラジオ番組業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
7	6月24日	Web動画・PV制作業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。将来、自分が携わりたい道(職種)を明確化して文章記述する。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		必要資料を適宜配布					
注意事項		7時間中3時間以上の欠席で修得済評価不可＝進級できません					

科目名		ペン字講座		担当講師		大島 晴美	
講師実務経験		書峰社書道勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書作成に向けてきれいな美しい文字の書き方を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	ひらがな、カタカナ					
2	4月24日	漢字(横書き・熟語)					
3	5月8日	横書き文章					
4	5月15日	横書き(俳句)					
5	5月22日	札幌市区、ハガキあて名書き					
6	5月29日	履歴書1					
7	6月5日	履歴書2					
8	6月19日	履歴書3、試験					
9	6月26日	履歴書4					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません=留年となります					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		本校の就職システム、内定までの流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月1日	就職システムの説明①					
2	7月8日	就職システムの説明②					
3	8月19日	求人票の見方①					
4	8月26日	求人票の見方②					
5	9月2日	求人検索方法					
6	9月9日	企業情報提供					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		6時間中3時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月3日	就職活動の流れ					
2	7月10日	働くということ					
3	8月21日	自己分析					
4	8月28日	自己PR作成					
5	9月4日	企業研究のしかた					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		5時間中2時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	基礎的な電気について					
3	5月13日	直流と交流とオームの法則について					
4	5月20日	直列・並列及び合成抵抗について					
5	5月27日	直流と交流及び周波数について					
6	6月3日	交流電力について					
7	6月17日	単相交流と三相交流について					
8	6月24日	分電盤・遮断器について					
9	7月1日	工具及びテスターの使い方					
10	7月8日	配線図と記号について					
11	8月19日	電気容量計算について					
12	8月26日	発電機からの電源について					
13	9月2日	電気の安全な取り扱いについて					
14	9月9日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音楽の3要素・五線・小節線・音部記号について					
3	5月14日	音符と休符及び付点音符と付点休符について					
4	5月21日	前回の音符・休符の種類の復習及び練習問題					
5	5月28日	小節と拍子。拍の強弱・アフタクト・シンコペーション等について					
6	6月4日	楽器の大別・弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器の種類及び合奏形態について					
7	6月18日	AG・EG、Gアンプ種類及び特徴、アンプの使い方及びドラム名称、楽器略号について					
8	6月25日	変化記号の種類及び用途と、異名同音について					
9	7月2日	音の表現及びスケールについて					
10	7月9日	調号、平行調、同主調について					
11	8月20日	調号から主音を見つけだす					
12	8月27日	五度圏について					
13	9月3日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
14	9月10日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		札幌のレコーディングスタジオに勤務、各種音響、録音、ゲームSE制作、CM同録など経験、以降フリーランスになってからも同業、各種音響、録音を仕事とする。					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月13日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月20日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	5月27日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月3日	インターネット通信について					
7	6月17日	デジタルと音について					
8	6月24日	デジタルと映像について					
9	7月1日	パソコンと各種コネクタについて					
10	7月8日	デジタルとの共存について					
11	8月19日	身近なものとデジタルについて					
12	8月26日	デジタル機材について					
13	9月2日	デジタル機材と操作について					
14	9月9日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/22、5/13、5/20)					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		マスメディア		担当講師		高橋 学		
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセランパセラン代表。						
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組			授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間			45 分
期		修 得 目 標						
1期		映画を中心として、さまざまな映像コンテンツの知識を修得する。						
2期		映像の知識を中心に、技術も学んでいく。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	授業ガイダンス						
2	4月22日	映像の基本的なルール①(基本編)について						
3	5月13日	映像の読み取り能力①(基本編)について						
4	5月20日	映像の基本的なルール②(応用編)について						
5	5月27日	映画、テレビ、CM、PV、Webコンテンツのそれぞれの映像の特徴						
6	6月3日	プリプロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
7	6月17日	プリプロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
8	6月24日	プロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
9	7月1日	プロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
10	7月8日	ポストダクションにおける映像の知識①(基本編)						
11	8月19日	ポストダクションにおける映像の知識②(応用編)						
12	8月26日	最新の映像技術について						
13	9月2日	映像の読み取り能力②(応用編)について						
14	9月9日	ショートコンテンツに特化した映像知識 まとめ&試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を習得する					
2期		音の聞こえ方や様々な効果を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月14日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月21日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	5月28日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月4日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月18日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月25日	正相、逆相等					
9	7月2日	音の性質					
10	7月9日	室内での音の動き等					
11	8月20日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月27日	カクテルパーティー効果					
13	9月3日	マスキング効果					
14	9月10日	ハース効果、、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月14日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月21日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	5月28日	ヘルメット					
6	6月4日	ラッシングベルト					
7	6月18日	機材の運搬					
8	6月25日	安全帯					
9	7月2日	健康管理と日常生活他					
10	7月9日	火気の使用他					
11	8月20日	精神的な注意事項他					
12	8月27日	始業時の打ち合わせ他					
13	9月3日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他					
14	9月10日	部門別作業について他、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台・テレビ照明の概要および光について修得する。					
2期		演出効果や美的効果を高める照明について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	照明家の仕事および考え方について					
3	5月14日	舞台照明とテレビ照明の相違点について					
4	5月21日	光の知識、眼やカメラの構造について					
5	5月28日	物を見るときの生理的な働きについて					
6	6月4日	光の単位について					
7	6月18日	人物の基本照明の種類について					
8	6月25日	光の方向と配分について					
9	7月2日	照明の演出・美的効果について					
10	7月9日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
11	8月20日	色彩による効果、光の三原色について					
12	8月27日	色彩の対比、白と黒との効果について					
13	9月3日	色温度について					
14	9月10日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		運営サイドとして関わるイベントとは何かを理解、修得する。					
2期		イベントの作られ方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	自己紹介、授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。					
2	4月22日	イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	5月13日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／PAと照明					
4	5月20日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／MCとプランナー					
5	5月27日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／ディレクター					
6	6月3日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／プロデューサー					
7	6月17日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／主催・後援・協力					
8	6月24日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／会場の条件					
9	7月1日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報1:マスメディア					
10	7月8日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報2:ネットメディア					
11	8月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報3:SNS					
12	8月26日	イベントに関わる各セクションの連携とコミュニケーションの重要性を学ぶ。					
13	9月2日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
14	9月9日	イベントに関わるものとして最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師	森 良太	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年	1	学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間	1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	45 分
期		修 得 目 標					
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。					
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	授業ガイダンス					
2	4月24日	ドラムセットの各名称と種類について					
3	5月8日	ドラムセットの各仕組みと構造について					
4	5月15日	ギター、ベースの種類と構造について					
5	5月22日	ギター、ベースの各部名称について					
6	5月29日	ギター、ベースアンプについて					
7	6月5日	鍵盤楽器の種類と構造について					
8	6月19日	電子鍵盤楽器の種類と構造について					
9	6月26日	木管楽器、金管楽器について					
10	7月3日	和楽器について					
11	7月10日	ドラムセットの実物に触れ、知識を深める					
12	8月21日	ギター、ベースの実物に触れ、知識を深める					
13	8月28日	鍵盤楽器の実物に触れ、知識を深める					
14	9月4日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		舞台論		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		劇場の歴史や基本的な知識および設備について修得する。					
2期		舞台の専門用語やスタッフおよび安全管理について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	西洋の上演芸術や劇場史について					
3	5月13日	日本の上演芸術や劇場史について					
4	5月20日	舞台の基本、平面・断面・寸法について					
5	5月27日	幕類用吊物設備について					
6	6月3日	照明用吊物設備について					
7	6月17日	大道具用および音響反射板・スクリーンなどの吊物設備について					
8	6月24日	舞台の床機構について					
9	7月1日	舞台の照明設備について					
10	7月8日	幕類・照明に関する専門用語について					
11	8月19日	公演・舞台に関する専門用語について					
12	8月26日	機構・道具に関する専門用語について					
13	9月2日	スタッフ・安全管理および労働災害防止について					
14	9月9日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベアシスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		放送音声		担当講師		種田 俊二	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		放送における「音声」の重要性を知り、「音声」の原理を理解する					
2期		マイクやレベルメーター、ワイヤレスなど、音声機材の基礎知識を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス					
2	4月20日	音声の重要性について					
3	5月11日	音と音声信号の基礎知識①					
4	5月18日	音と音声信号の基礎知識②					
5	5月25日	バランスとアンバランスについて①					
6	6月1日	バランスとアンバランスについて②					
7	6月22日	マイクの基礎知識①					
8	6月29日	マイクの基礎知識②					
9	7月6日	マイクの基礎知識③					
10	7月13日	レベルメーターの種類と原理					
11	8月17日	リミッター、コンプレッサーの原理					
12	8月24日	カメラ搭載マイクの基礎知識					
13	8月31日	ワイヤレスマイクの基礎知識					
14	9月7日	総まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		企画制作1		担当講師		河西 隆之	
講師実務経験		テレビ番組制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		制作業務の役割や作業の流れを理解する					
2期		番組の企画を立てる					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス・番組が放送されるまでの流れ					
2	4月20日	番組の分類と形態①					
3	5月11日	番組の分類と形態②					
4	5月18日	スタッフと役割①					
5	5月25日	スタッフと役割②					
6	6月1日	企画書の作り方					
7	6月22日	企画書作成①					
8	6月29日	企画書作成②					
9	7月6日	企画会議シミュレーション					
10	7月13日	構成の作り方					
11	8月17日	構成の作成					
12	8月24日	台本の作成①					
13	8月31日	台本の作成②					
14	8月7日	後期に向けて班分け、作品①の企画立案					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		24時間中9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		編集実習 I		担当講師		岡 宏樹 田中 慶孝	
講師実務経験		映像制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Premiereの基本操作を習得する					
2期		クオリティを意識して映像作品を制作する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス Premiereを用いた映像編集①(プロジェクトの作成、素材の取り込み、編集ツール)					
2	4月21日	Premiereを用いた映像編集②(カット編集)					
3	5月12日	Premiereを用いた映像編集③(エフェクト、トランジション)					
4	5月19日	Premiereを用いた映像編集④(カラーコレクション、テロップ)					
5	5月26日	Premiereを用いた映像編集⑤(MA)					
6	6月2日	Premiereを用いた映像編集⑥(完成)					
7	6月16日	映像の構成について					
8	6月23日	構成を意識した映像編集①					
9	6月30日	構成を意識した映像編集②					
10	7月7日	構成を意識した映像編集③					
11	8月18日	オリジナル作品制作①					
12	8月25日	オリジナル作品制作②					
13	9月1日	完成作品試写、ディスカッション					
14	9月8日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		撮影実習 I		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		基本的なENGカメラの操作方法を修得する。					
2期		撮影の基本となるフィック撮り、パン、ズーム等を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス					
2	4月21日	ENGカメラの取り扱い方と注意点					
3	5月12日	レンズ操作部の理解と色温度、NDフィルターについて					
4	5月19日	手持ち撮影の基本姿勢について					
5	5月26日	三脚の取り扱い方と撮影方法					
6	6月2日	実践テクニック① ～フィックス撮影～					
7	6月16日	実践テクニック② ～フィックス撮影～					
8	6月23日	実践テクニック③ ～パン、ティルト撮影～					
9	6月30日	実践テクニック④ ～ズーム撮影～					
10	7月7日	実践テクニック⑤ ～トラック、ドリー撮影～					
11	8月18日	音声機材の取り扱い方と注意点					
12	8月25日	照明機材の取り扱い方と注意点					
13	9月1日	撮影実習 総まとめ講座					
14	9月8日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		資料配布					
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		業界研究		担当講師	各担任	
講師実務経験		各実務経験				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間	1 期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標				
1期		音楽・放送業界を広く浅く理解し、どのような業種・職種があるのか、またどんな仕事をしているのか、どんな役割を果たしているのか等を理解し、見聞を広める。				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月15日	ミュージシャン業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
2	4月22日	PA・音響業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
3	5月13日	レコーディング業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
4	5月20日	コンサート・イベント業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
5	5月27日	照明業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
6	6月3日	テレビ番組業界とラジオ番組業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。				
7	6月24日	Web動画・PV制作業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。将来、自分が携わりたい道(職種)を明確化して文章記述する。				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		必要資料を適宜配布				
注意事項		7時間中3時間以上の欠席で修得済評価不可＝進級できません				

科目名		ペン字講座		担当講師		大島 晴美	
講師実務経験		書峰社書道勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書作成に向けてきれいな美しい文字の書き方を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	ひらがな、カタカナ					
2	4月24日	漢字(横書き・熟語)					
3	5月8日	横書き文章					
4	5月15日	横書き(俳句)					
5	5月22日	札幌市区、ハガキあて名書き					
6	5月29日	履歴書1					
7	6月5日	履歴書2					
8	6月19日	履歴書3、試験					
9	6月26日	履歴書4					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません=留年となります					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		本校の就職システム、内定までの流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月1日	就職システムの説明①					
2	7月8日	就職システムの説明②					
3	8月19日	求人票の見方①					
4	8月26日	求人票の見方②					
5	9月2日	求人検索方法					
6	9月9日	企業情報提供					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		6時間中3時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月3日	就職活動の流れ					
2	7月10日	働くということ					
3	8月21日	自己分析					
4	8月28日	自己PR作成					
5	9月4日	企業研究のしかた					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		5時間中2時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		陸上特殊無線 I		担当講師		東峰 康二	
講師実務経験		映像制作会社 勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイイト専攻		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
2期		国家資格 陸上特殊無線技士 2級を取得する為行う試験対策ゼミ。2期は無線の基礎知識ちと法規基礎中心に学びます					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月6日	-授業ガイダンス- 無線のイロハを学ぶ。資格の必要性、合格基準を習得					
2	7月13日	基礎・法規から学び① 電波／資格を理解する 2級陸特特殊無線技士の使用範囲(法規から学ぶ) 無線従事者とは?					
3	8月17日	基礎・法規から学び② 無線の資格と設備を理解する 2級陸特の定義を学び、無線局の免許・設備					
4	8月24日	基礎・法規から学ぶ③ 電波の形式 電波の分類					
5	8月31日	基礎・法規、工学①(アンテナの必要性を学ぶ) アンテナ及び衛星中継					
6	9月7日	基礎・法規、工学② 定期試験の為の復習対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		無線従事者養成課程標準教科書 法規／無線工学、プリント配布					
注意事項		12時間中5時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		放送概論		担当講師		種田 俊二	
講師実務経験		放送局勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	ビジュアルクリエイト専攻		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		放送事業の現況と近未来を概観し、基礎知識を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月6日	授業ガイダンス 放送事業とは					
2	7月13日	放送事業の現況と動向					
3	8月17日	地上放送の仕組み ネットワークと番組制作会社					
4	8月24日	民間放送局の収益源 コマーシャル					
5	8月31日	放送とネットの融合					
6	9月7日	放送事業の近未来					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		6時間中3時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	基礎的な電気について					
3	5月13日	直流と交流とオームの法則について					
4	5月20日	直列・並列及び合成抵抗について					
5	5月27日	直流と交流及び周波数について					
6	6月3日	交流電力について					
7	6月17日	単相交流と三相交流について					
8	6月24日	分電盤・遮断器について					
9	7月1日	工具及びテスターの使い方					
10	7月8日	配線図と記号について					
11	8月19日	電気容量計算について					
12	8月26日	発電機からの電源について					
13	9月2日	電気の安全な取り扱いについて					
14	9月9日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音楽の3要素・五線・小節線・音部記号について					
3	5月14日	音符と休符及び付点音符と付点休符について					
4	5月21日	前回の音符・休符の種類の復習及び練習問題					
5	5月28日	小節と拍子。拍の強弱・アウフタクト・シンコペーション等について					
6	6月4日	楽器の大別・弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器の種類及び合奏形態について					
7	6月18日	AG・EG、Gアンプ種類及び特徴、アンプの使い方及びドラム名称、楽器略号について					
8	6月25日	変化記号の種類及び用途と、異名同音について					
9	7月2日	音の表現及びスケールについて					
10	7月9日	調号、平行調、同主調について					
11	8月20日	調号から主音を見つけだす					
12	8月27日	五度圏について					
13	9月3日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
14	9月10日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		札幌のレコーディングスタジオに勤務、各種音響、録音、ゲームSE制作、CM同録など経験、以降フリーランスになってからも同業、各種音響、録音を仕事とする。					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月13日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月20日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	5月27日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月3日	インターネット通信について					
7	6月17日	デジタルと音について					
8	6月24日	デジタルと映像について					
9	7月1日	パソコンと各種コネクタについて					
10	7月8日	デジタルとの共存について					
11	8月19日	身近なものとデジタルについて					
12	8月26日	デジタル機材について					
13	9月2日	デジタル機材と操作について					
14	9月9日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/22、5/13、5/20)					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		マスメディア		担当講師		高橋 学		
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセランパセラン代表。						
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組			授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間			45 分
期		修 得 目 標						
1期		映画を中心として、さまざまな映像コンテンツの知識を修得する。						
2期		映像の知識を中心に、技術も学んでいく。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	授業ガイダンス						
2	4月22日	映像の基本的なルール①(基本編)について						
3	5月13日	映像の読み取り能力①(基本編)について						
4	5月20日	映像の基本的なルール②(応用編)について						
5	5月27日	映画、テレビ、CM、PV、Webコンテンツのそれぞれの映像の特徴						
6	6月3日	プリプロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
7	6月17日	プリプロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
8	6月24日	プロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
9	7月1日	プロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
10	7月8日	ポストダクションにおける映像の知識①(基本編)						
11	8月19日	ポストダクションにおける映像の知識②(応用編)						
12	8月26日	最新の映像技術について						
13	9月2日	映像の読み取り能力②(応用編)について						
14	9月9日	ショートコンテンツに特化した映像知識 まとめ&試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		15時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を習得する					
2期		音の聞こえ方や様々な効果を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月14日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月21日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	5月28日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月4日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月18日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月25日	正相、逆相等					
9	7月2日	音の性質					
10	7月9日	室内での音の動き等					
11	8月20日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月27日	カクテルパーティー効果					
13	9月3日	マスキング効果					
14	9月10日	ハース効果、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド、ビジュアルクリエイト 各専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月13日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月20日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	5月27日	ヘルメット					
6	6月3日	ラッシングベルト					
7	6月17日	機材の運搬					
8	6月24日	安全帯					
9	7月1日	健康管理と日常生活他					
10	7月8日	火気の使用他					
11	8月19日	精神的な注意事項他					
12	8月26日	始業時の打ち合わせ他					
13	9月2日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他					
14	9月9日	部門別作業について他					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台・テレビ照明の概要および光について修得する。					
2期		演出効果や美的効果を高める照明について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	照明家の仕事および考え方について					
3	5月14日	舞台照明とテレビ照明の相違点について					
4	5月21日	光の知識、眼やカメラの構造について					
5	5月28日	物を見るとききの生理的な働きについて					
6	6月4日	光の単位について					
7	6月18日	人物の基本照明の種類について					
8	6月25日	光の方向と配分について					
9	7月2日	照明の演出・美的効果について					
10	7月9日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
11	8月20日	色彩による効果、光の三原色について					
12	8月27日	色彩の対比、白と黒との効果について					
13	9月3日	色温度について					
14	9月10日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		2 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		運営サイドとして関わるイベントとは何かを理解、修得する。					
2期		イベントの作られ方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	自己紹介、授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。					
2	4月22日	イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	5月13日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／PAと照明					
4	5月20日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／MCとプランナー					
5	5月27日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／ディレクター					
6	6月3日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／プロデューサー					
7	6月17日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／主催・後援・協力					
8	6月24日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／会場の条件					
9	7月1日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報1:マスメディア					
10	7月8日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報2:ネットメディア					
11	8月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報3:SNS					
12	8月26日	イベントに関わる各セクションの連携とコミュニケーションの重要性を学ぶ。					
13	9月2日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
14	9月9日	イベントに関わるものとして最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師	森 良太			
講師実務経験		音響会社勤務							
対象学年		1	学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義	
期 間		1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	45	分
期		修 得 目 標							
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。							
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。							
回数	日程	【授 業 計 画】							
1	4月17日	授業ガイダンス							
2	4月24日	ドラムセットの各名称と種類について							
3	5月8日	ドラムセットの各仕組みと構造について							
4	5月15日	ギター、ベースの種類と構造について							
5	5月22日	ギター、ベースの各部名称について							
6	5月29日	ギター、ベースアンプについて							
7	6月5日	鍵盤楽器の種類と構造について							
8	6月19日	電子鍵盤楽器の種類と構造について							
9	6月26日	木管楽器、金管楽器について							
10	7月3日	和楽器について							
11	7月10日	ドラムセットの実物に触れ、知識を深める							
12	8月21日	ギター、ベースの実物に触れ、知識を深める							
13	8月28日	鍵盤楽器の実物に触れ、知識を深める							
14	9月4日	試験対策							
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)							
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)							
テキスト		プリント配布							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)							

科目名		放送倫理		担当講師		齋藤 忠貞	
講師実務経験							
対象学年		1 学年	対象専攻	C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		放送(テレビ、ラジオ、インターネット)の表現について公平性や倫理上の問題点を検証し、次の番組制作に資することを目的とする					
2期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス 個人のコミュニケーションについて					
2	4月23日	民放連の報道指針 放送倫理規定の現実					
3	5月14日	20歳で変わること ①公職選挙法(18歳に引き下げ) ②裁判員制度 ③少年法					
4	5月21日	20歳で変わること ①公職選挙法(18歳に引き下げ) ②裁判員制度 ③少年法					
5	5月28日	表現手法 ①言葉 ②文章					
6	6月4日	表現手法 ①言葉 ②文章					
7	6月18日	放送法 電波法 自主規制(ネットとの比較)					
8	6月25日	過去の事例 ①メディアスクラム(松本サリン事件) ②政治的公平(椿発言) ③誤報(ダイオキシン問題)					
9	7月2日	過去の事例 ①メディアスクラム(松本サリン事件) ②政治的公平(椿発言) ③誤報(ダイオキシン問題)					
10	7月9日	NHKと民放 キー局とローカル局の違い					
11	8月20日	ドキュメンタリー制作の事例(ミニアコンガ)再現					
12	8月27日	CM制作の注意点(誇張、虚偽)					
13	9月3日	テスト準備					
14	9月10日	テスト					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		PA実習(選択)		担当講師		五十嵐 雅生	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		PAという仕事について知る。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	ステレオアウトを使って音を出す					
2	5月18日 5月25日 6月1日	AUXアウトを使って音を出す					
3	6月22日 6月29日	エフェクターを使う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		REC実習(選択)		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		レコーディング業界とレコーディングエンジニアという職業を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	スタジオの作りを理解し、レコーディングエンジニアの職業を理解する。簡単なラフミックス体験					
2	5月18日 5月25日 6月1日	ブース内(ドラム・ベース・ギター)にマイクをセッティングし録音。録音の作業工程を理解する。					
3	6月22日 6月29日	バンド録音(マイクセッティング～録音～ラフミックスまで)完パケを作成。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明実習(選択)		担当講師		笹出 将太	
講師実務経験		照明音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		『照明』とは、どのような仕事かを知り、自分が目指す職種と他の職種との関わりを修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	授業ガイダンス。照明という仕事、仕込みについて					
	4月20日						
	5月11日						
2	5月18日	光の演出効果について					
	5月25日						
	6月1日						
3	6月22日	仕込から本番、撤収について					
	6月29日						
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		24時間中9時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習(選択)		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ラジオ番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～企画考案、役割決定、キューシート作成、音源選定					
2	5月18日 5月25日 6月1日	台本制作、収録リハーサル、だめ出し					
3	6月22日 6月29日	本番収録、検聴、反省会					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		テレビ番組制作(選択)		担当講師		田端 優一	
講師実務経験		放送局関連会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		基本的な番組制作の流れとスタッフの役割を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス～番組制作の現場について					
2	5月18日 5月25日 6月1日	テレビスタジオ、副調整室の仕組みや機材全般の取り扱い方について					
3	6月22日 6月29日	テレビスタジオで番組の収録を行う					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		文書デザイン(選択)		担当講師		菊池 亮太	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		Wordを中心にPCの初歩的な基本操作を習得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	授業ガイダンス PC操作・Wordの基本的な操作・文書作成					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 文書作成を行いながら、文字装飾や段組み、表や図の挿入・編集、ページ罫線を学ぶ					
3	6月22日 6月29日	Wordによるビジュアル文書の形式・作成 1、2回で学んだことを生かし、指定した文書を制作する					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ヴォーカル実習（選択）		担当講師		中田 有紀	
講師実務経験		ヴォーカルトレーナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ヴォーカルトレーニングの基本を知る					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	腹式呼吸での発声法、基本姿勢					
2	5月18日 5月25日 6月1日	課題曲レッスン					
3	6月22日 6月29日	課題曲レッスン(コーラス、マイクワーク含)					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ギター実習(選択)		担当講師		川畑 統正	
講師実務経験		ギタリスト					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1 期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1 期		ギターの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	基本的なギターの演奏法 フィンガートレーニング、ストロークの基礎。シンプルなコードとチェンジについて。					
2	5月18日 5月25日 6月1日	Eブルース進行での演奏。 オープンコード、リズムコードなどで、リズムのバリエーション。ベースライン、メロディについて					
3	6月22日 6月29日	課題曲の演奏					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ベース実習(選択)		担当講師		田中 久雄	
講師実務経験		ベースист					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実習
期 間		1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		ベースの基本を知り、体験する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日 4月20日 5月11日	チューニング、基本姿勢、ピッキング					
2	5月18日 5月25日 6月1日	運指トレーニング、コードについて					
3	6月22日 6月29日	運指トレーニング、コードについて					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		資料配布					
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		ドラム実習(選択)		担当講師	岸林大輔	
講師実務経験		演奏家、ドラム講師				
対象学年	1 学年	対象専攻	A,B,C,D組 選択者		授業形態	実技実習
期 間	1期	総授業回数	3 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標				
1期		Dr.Set、リズムの基本を知り、体験する				
回数	日程	【授 業 計 画】				
1	4月13日 4月20日 5月11日	Stick Control&Foot リズムスタイル				
2	5月18日 5月25日 6月1日	リズムスタイル#2、Fill-In				
3	6月22日 6月29日	リズムスタイル#3、エチュード、まとめ				
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価				
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト		資料配布				
注意事項		9時間中4時間の欠席で「修得済」評価不可=進級ができません(留年となります)				

科目名		REC実習 I		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		レコーディング業界のしくみと仕事内容を理解すること。また、レコーディングスタジオの作りと現場で実際に使用する機材の種類、メーカー、型番を理解する。					
2期		録音・ミックスの基本機能を習得し、実際のミック作業を通して、作業の難しさを理解する。また、基本楽器(ドラム、ベース、ギター)のセッティングを行い作業の流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月13日	音楽業界内の職種について学び、職種ごとのつながりや、スタジオの種類、社会的立場を理化する。たま、スタジオの作りを学び、「リスニング」の重要性を理解する。					
2	4月20日	スタジオの電源等、スタジオ内システムを習得する。					
3	5月11日	スタジオコンソールの仕組みを習得する。					
4	5月18日	ダイナミックマイク、コンデンサーマイクそれぞれのメーカー名、型番を覚える。					
5	5月25日	イコライザー、パンポット、フェーダーの使い方を習得する。					
6	6月1日	グループ(3～4名)に分かれて、制限時間の中で音を実際に操作し、意見交換を行う。					
7	6月22日	①ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
8	6月29日	②ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
9	7月6日	どのようにSSLミキシングコンソールに音声信号が流れているのか理解する。(Record+Fader Reverse MODE)					
10	7月13日	ミキシングコンソールの信号の流れを理解する。(Record MODE、Mix MODEについて)					
11	8月17日	③ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
12	8月24日	④ドラム、ベース、ギターに実際にマイクをセッティングし、回線チェック、サウンドチェックを行い、レコーディングの大まかな流れを理解する。					
13	8月31日	デモ音源を使つてのラフミックス①					
14	9月7日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		SR技術概論 I		担当講師		金沢 琢司	
講師実務経験		レコーディングエンジニア					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		「音」の理論、基礎知識、捉え方、考え方を理解・習得する					
2期		音響機器の種類、製造販売を行っているメーカー、型番など、現場で使用される知識を習得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス 音響の基礎として①主観的な音と客観的な音 ②聴覚器官の構造 を理解する					
2	4月21日	音響の基礎として③音の性質(3大要素と波形) ④正相と逆相 を理解する。					
3	5月12日	⑤音の速度(音速、波長など)⑥音の種類(正弦波, 矩形波, 三角波, のこぎり波)について理解する。					
4	5月19日	音圧レベルとデシベルについて理解する。					
5	5月26日	デシベルの計算方法をもとに対比を理解する。					
6	6月2日	周波数と音階の関係性を理解する。					
7	6月16日	ダイナミックレンジの内容を理解し、S/N(信号と雑音の比率)について理解する。					
8	6月23日	2つの耳で音聞くことによる効果(両耳効果)について学び、ステレオ効果について理解する。					
9	6月30日	世界的に有名な音響機器(ミキシングコンソールやDAW、アウトボードなど)メーカーの簡単な歴史と代表機材を学び、理解する。					
10	7月7日	世界的に有名な音響機器(マイクやケーブル類、スタジオ備品)メーカーの簡単な歴史と代表機材を学び、理解する。					
11	8月18日	①業界で使用されている機材の型番(名称)を理解する。					
12	8月25日	②業界で使用されている機材の型番(名称)を理解する。					
13	9月1日	音響機材のメーカー名、型番の復習を行う。					
14	9月8日	授業内容の復習を行い、知識を深める。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		各回授業にてプリント配布					
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		MA実習 I		担当講師		田 莉子 和之	
講師実務経験		音楽・番組制作会社に勤務。 テレビ番組等、映像制作の音に携わる。					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
1期		MAの概要を学習し、ビデオ制作における音声編集の基礎的な知識と技術を理解する。					
2期		動画にナレーション・効果音・音楽等の音声を録音・編集する事を実技体験し、基礎的な技術や知識を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月14日	授業ガイダンス／MAの概要・基礎的な知識について（1）					
2	4月21日	MAの概要・基礎的な知識について（2）					
3	5月12日	MAの概要・基礎的な知識について（3）					
4	5月19日	MA作業準備について					
5	5月26日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（1）					
6	6月2日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（2）					
7	6月16日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（3）					
8	6月23日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（4）					
9	6月30日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（5）					
10	7月7日	ナレーション・アフレコの収録 ／ 音楽や効果音の仕込みについて（6）					
11	8月18日	復習、まとめ					
12	8月25日	実技習得度判定試験対策					
13	9月1日	実技習得度判定試験					
14	9月8日	試験対策					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
		※実技習得度評価時期・方法:実技習得度判定試験の実施 *【授業計画】参照					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		42時間中15時間の欠席で定期試験受験不可=留年となります					

科目名		業界研究		担当講師		各担任	
講師実務経験		各実務経験					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1 期	総授業回数	7 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽・放送業界を広く浅く理解し、どのような業種・職種があるのか、またどんな仕事をしているのか、どんな役割を果たしているのか等を理解し、見聞を広める。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	ミュージシャン業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
2	4月22日	PA・音響業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
3	5月13日	レコーディング業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
4	5月20日	コンサート・イベント業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
5	5月27日	照明業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
6	6月3日	テレビ番組業界とラジオ番組業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。					
7	6月24日	Web動画・PV制作業界の説明。職種、仕事内容、役割を理解する。将来、自分が携わりたい道（職種）を明確化して文章記述する。					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価（点数評価は行わない）					
テキスト		必要資料を適宜配布					
注意事項		7時間中3時間以上の欠席で修得済評価不可＝進級できません					

科目名		ペン字講座		担当講師		大島 晴美	
講師実務経験		書峰社書道勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組 各専攻		授業形態	講義
期 間		1期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		履歴書作成に向けてきれいな美しい文字の書き方を修得する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	ひらがな、カタカナ					
2	4月24日	漢字(横書き・熟語)					
3	5月8日	横書き文章					
4	5月15日	横書き(俳句)					
5	5月22日	札幌市区、ハガキあて名書き					
6	5月29日	履歴書1					
7	6月5日	履歴書2					
8	6月19日	履歴書3、試験					
9	6月26日	履歴書4					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		9時間中4時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません=留年となります					

科目名		就職ガイダンス		担当講師		片岡 朋子/一岡 永	
講師実務経験		イベント制作会社勤務/音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		本校の就職システム、内定までの流れを理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月1日	就職システムの説明①					
2	7月8日	就職システムの説明②					
3	8月19日	求人票の見方①					
4	8月26日	求人票の見方②					
5	9月2日	求人検索方法					
6	9月9日	企業情報提供					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト		就職便覧、プリント配布					
注意事項		6時間中3時間の欠席で修得済評価不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		履歴書作成講座		担当講師		木下 有希	
講師実務経験		マナーインストラクターとして、企業研修や各種学校でマナー指導に従事					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		2期	総授業回数	5 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
2期		履歴書の作成方法を学び、就職に備える。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月3日	就職活動の流れ					
2	7月10日	働くということ					
3	8月21日	自己分析					
4	8月28日	自己PR作成					
5	9月4日	企業研究のしかた					
評価方法		3分の2以上の出席で「修得済」評価					
評価		「修得済」評価(点数評価は行わない)					
テキスト							
注意事項		5時間中2時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		ラジオ実習Ⅰ		担当講師		小林 雅和	
講師実務経験		広告代理店勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド専攻		授業形態	実習
期 間		2期	総授業回数	6 回	1回あたりの授業時間		135 分
期		修 得 目 標					
2期		ラジオ番組制作の基本を理解し、学ぶ。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	7月6日	授業ガイダンス、模擬番組企画A考案、担当決定					
2	7月13日	キューシート、台本づくり、選曲					
3	8月17日	リハーサル、本番収録、試聴					
4	8月24日	模擬番組企画B考案、担当決定					
5	8月31日	キューシート、台本づくり、選曲					
6	9月7日	リハーサル、本番収録、試聴					
評価方法		定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		18時間中7時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		電気基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		電気の基礎を学び、日常で使用している電気について理解する。					
2期		安全に電気を取扱をする為の基礎を理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	基礎的な電気について					
3	5月13日	直流と交流とオームの法則について					
4	5月20日	直列・並列及び合成抵抗について					
5	5月27日	直流と交流及び周波数について					
6	6月3日	交流電力について					
7	6月17日	単相交流と三相交流について					
8	6月24日	分電盤・遮断器について					
9	7月1日	工具及びテスターの使い方					
10	7月8日	配線図と記号について					
11	8月19日	電気容量計算について					
12	8月26日	発電機からの電源について					
13	9月2日	電気の安全な取り扱いについて					
14	9月9日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		音楽基礎		担当講師		鈴木 雅光	
講師実務経験		イベント制作会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		90 分
期		修 得 目 標					
1期		音楽の基礎を通して、音符・休符・拍子・音楽記号・各楽器・音階・調号を理解する。					
2期		楽譜の進行を読み取れるよう修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音楽の3要素・五線・小節線・音部記号について					
3	5月14日	音符と休符及び付点音符と付点休符について					
4	5月21日	前回の音符・休符の種類の復習及び練習問題					
5	5月28日	小節と拍子。拍の強弱・アウフタクト・シンコペーション等について					
6	6月4日	楽器の大別・弦楽器・管楽器・打楽器・鍵盤楽器の種類及び合奏形態について					
7	6月18日	AG・EG、Gアンプ種類及び特徴、アンプの使い方及びドラム名称、楽器略号について					
8	6月25日	変化記号の種類及び用途と、異名同音について					
9	7月2日	音の表現及びスケールについて					
10	7月9日	調号、平行調、同主調について					
11	8月20日	調号から主音を見つけだす					
12	8月27日	五度圏について					
13	9月3日	演奏順序の記号の種類及び用途について					
14	9月10日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		28時間中10時間以上の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		デジタル基礎		担当講師		福岡 博美	
講師実務経験		札幌のレコーディングスタジオに勤務、各種音響、録音、ゲームSE制作、CM同録など経験、以降フリーランスになってからも同業、各種音響、録音を仕事とする。					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		デジタルについての様々な基礎を修得する。					
2期		デジタル機材の基礎知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	デジタルとアナログの違いとデジタル信号について					
3	5月13日	音声のデジタル化と再生について					
4	5月20日	デジタルオーディオの伝送フォーマットについて					
5	5月27日	外部記憶媒体のしくみと種類について					
6	6月3日	インターネット通信について					
7	6月17日	デジタルと音について					
8	6月24日	デジタルと映像について					
9	7月1日	パソコンと各種コネクタについて					
10	7月8日	デジタルとの共存について					
11	8月19日	身近なものとデジタルについて					
12	8月26日	デジタル機材について					
13	9月2日	デジタル機材と操作について					
14	9月9日	前期講義まとめと試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		1期前半に音響映像設備マニュアルを使用(4/22、5/13、5/20)					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		マスメディア		担当講師		高橋 学		
講師実務経験		映画の予告編やCMなどを製作するclapfilm LLP代表。その他に、PVや企業VP、コンサート映像など幅広く手がける。映画、CMなどの撮影をサポートするゆうばりフィルムコミッション代表。ゆうばり映画祭、実行委員。障がい者のタレント事務所、ケセラランパセラン代表。						
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組			授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	15 回	1回あたりの授業時間			45 分
期		修 得 目 標						
1期		映画を中心として、さまざまな映像コンテンツの知識を修得する。						
2期		映像の知識を中心に、技術も学んでいく。						
回数	日程	【授 業 計 画】						
1	4月15日	授業ガイダンス						
2	4月22日	映像の基本的なルール①(基本編)について						
3	5月13日	映像の読み取り能力①(基本編)について						
4	5月20日	映像の基本的なルール②(応用編)について						
5	5月27日	映画、テレビ、CM、PV、Webコンテンツのそれぞれの映像の特徴						
6	6月3日	プリプロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
7	6月17日	プリプロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
8	6月24日	プロダクションにおける映像の知識①(基本編)						
9	7月1日	プロダクションにおける映像の知識②(応用編)						
10	7月8日	ポストダクションにおける映像の知識①(基本編)						
11	8月19日	ポストダクションにおける映像の知識②(応用編)						
12	8月26日	最新の映像技術について						
13	9月2日	映像の読み取り能力②(応用編)について						
14	9月9日	ショートコンテンツに特化した映像知識 まとめ&試験対策						
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)						
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト								
注意事項		15時間中6時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名		音響理論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		音に関する基礎知識を習得する					
2期		音の聞こえ方や様々な効果を理解する					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	音の伝達方式、音が伝わる仕組み、音の速さ、波形等					
3	5月14日	音程とは何か。周波数、波長、可聴周波数帯域、オクターブ等					
4	5月21日	音色とは何か。正弦波と倍音構成、音色変化の仕組み等					
5	5月28日	共振、音質のコントロール、イコライザーについて					
6	6月4日	dB(デシベル)、音圧レベル、アンプ、ボリューム等					
7	6月18日	様々な楽器の音量とその変化、エンベロープとその要素					
8	6月25日	正相、逆相等					
9	7月2日	音の性質					
10	7月9日	室内での音の動き等					
11	8月20日	両耳受聴効果、ドップラー効果等					
12	8月27日	カクテルパーティー効果					
13	9月3日	マスキング効果					
14	9月10日	ハース効果、定期試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		安全概論		担当講師		久本 晃三	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年		1 学年	対象専攻	スタジオサウンド、ビジュアルクリエイト 各専攻		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		様々な作業に潜む危険を予測できるようになり、安全への意識を高める。					
2期		日本舞台技術安全協会の定める安全基準について理解する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	授業ガイダンス					
2	4月22日	安全衛生管理の基本を学ぶ					
3	5月13日	現場における、事故事例の紹介					
4	5月20日	作業に適した服装(靴、グローブ、衣服等)					
5	5月27日	ヘルメット					
6	6月3日	ラッシングベルト					
7	6月17日	機材の運搬					
8	6月24日	安全帯					
9	7月1日	健康管理と日常生活他					
10	7月8日	火気の使用他					
11	8月19日	精神的な注意事項他					
12	8月26日	始業時の打ち合わせ他					
13	9月2日	落下、飛来落下、転倒、倒壊など危険を伴う作業他					
14	9月9日	部門別作業について他					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14回中5回の欠席で定期試験受験不可=進級ができません(留年となります)					

科目名		照明工学		担当講師		竹平 耕一	
講師実務経験		放送関連会社勤務、照明デザイナー					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		舞台・テレビ照明の概要および光について修得する。					
2期		演出効果や美的効果を高める照明について修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス					
2	4月23日	照明家の仕事および考え方について					
3	5月14日	舞台照明とテレビ照明の相違点について					
4	5月21日	光の知識、眼やカメラの構造について					
5	5月28日	物を見るときの生理的な働きについて					
6	6月4日	光の単位について					
7	6月18日	人物の基本照明の種類について					
8	6月25日	光の方向と配分について					
9	7月2日	照明の演出・美的効果について					
10	7月9日	モノトーン・立体感・遠近感の効果について					
11	8月20日	色彩による効果、光の三原色について					
12	8月27日	色彩の対比、白と黒との効果について					
13	9月3日	色温度について					
14	9月10日	1期2期の総括および試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点（出席率、提出物、授業態度・取組状況など）					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません（留年となります）					

科目名		イベント概論		担当講師		横山 聡史	
講師実務経験		YOSAKOIソーラン祭札幌駅南口広場会場ディレクション・朗読舞台「悠久の自然アラスカ」札幌公演ディレクションほか					
対象学年		1 学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		運営サイドとして関わるイベントとは何かを理解、修得する。					
2期		イベントの作られ方、企画・運営等の基礎を修得する。また、イベントに関わる者としての心得を学び、ものの考え方を養う。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月15日	自己紹介、授業概要の説明。 目標設定と様々なものに関心や興味を持つ事の大切さを学ぶ。					
2	4月22日	イベントの定義と一般的な運営組織図を学ぶ。					
3	5月13日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／PAと照明					
4	5月20日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／MCとプランナー					
5	5月27日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／ディレクター					
6	6月3日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／プロデューサー					
7	6月17日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／主催・後援・協力					
8	6月24日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／会場の条件					
9	7月1日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報1:マスメディア					
10	7月8日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報2:ネットメディア					
11	8月19日	イベントに関わる様々なセクションやスタッフの役割について学ぶ／広報3:SNS					
12	8月26日	イベントに関わる各セクションの連携とコミュニケーションの重要性を学ぶ。					
13	9月2日	イベントを開催する為の見積りや利益率の計算を学ぶ。					
14	9月9日	イベントに関わるものとして最低限必要な心得、プライオリティを学ぶ。					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		楽器概論			担当講師	森 良太	
講師実務経験		音響会社勤務					
対象学年	1	学年	対象専攻	A,B,C組		授業形態	講義
期 間	1期・2期		総授業回数	14	回	1回あたりの授業時間	45 分
期		修 得 目 標					
1期		4リズムについての様々な知識を修得する。					
2期		その他の楽器の知識及び実際に楽器に触れ、深い知識を修得する。					
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月17日	授業ガイダンス					
2	4月24日	ドラムセットの各名称と種類について					
3	5月8日	ドラムセットの各仕組みと構造について					
4	5月15日	ギター、ベースの種類と構造について					
5	5月22日	ギター、ベースの各部名称について					
6	5月29日	ギター、ベースアンプについて					
7	6月5日	鍵盤楽器の種類と構造について					
8	6月19日	電子鍵盤楽器の種類と構造について					
9	6月26日	木管楽器、金管楽器について					
10	7月3日	和楽器について					
11	7月10日	ドラムセットの実物に触れ、知識を深める					
12	8月21日	ギター、ベースの実物に触れ、知識を深める					
13	8月28日	鍵盤楽器の実物に触れ、知識を深める					
14	9月4日	試験対策					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト		プリント配布					
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					

科目名		放送倫理		担当講師		齋藤 忠貞	
講師実務経験							
対象学年		1 学年	対象専攻	C組		授業形態	講義
期 間		1期・2期	総授業回数	14 回	1回あたりの授業時間		45 分
期		修 得 目 標					
1期		放送(テレビ、ラジオ、インターネット)の表現について公平性や倫理上の問題点を検証し、次の番組制作に資することを目的とする					
2期							
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	4月16日	授業ガイダンス 個人のコミュニケーションについて					
2	4月23日	民放連の報道指針 放送倫理規定の現実					
3	5月14日	20歳で変わること ①公職選挙法(18歳に引き下げ) ②裁判員制度 ③少年法					
4	5月21日	20歳で変わること ①公職選挙法(18歳に引き下げ) ②裁判員制度 ③少年法					
5	5月28日	表現手法 ①言葉 ②文章					
6	6月4日	表現手法 ①言葉 ②文章					
7	6月18日	放送法 電波法 自主規制(ネットとの比較)					
8	6月25日	過去の事例 ①メディアスクラム(松本サリン事件) ②政治的公平(椿発言) ③誤報(ダイオキシン問題)					
9	7月2日	過去の事例 ①メディアスクラム(松本サリン事件) ②政治的公平(椿発言) ③誤報(ダイオキシン問題)					
10	7月9日	NHKと民放 キー局とローカル局の違い					
11	8月20日	ドキュメンタリー制作の事例(ミニアコンガ)再現					
12	8月27日	CM制作の注意点(誇張、虚偽)					
13	9月3日	テスト準備					
14	9月10日	テスト					
評価方法		定期試験点数、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)					
評価		上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)					
テキスト							
注意事項		14時間中5時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)					